

# 徳山高専だより

National Institute of Technology,  
Tokuyama College

徳山工業高等専門学校

特集 | Society 5.0時代に向かって

2021年度 No.75



02	巻頭言
03	Society 5.0時代に向かって
05	テクノロジーで共生社会の形成に挑む！
06	徳山高専魅力発信プロジェクト
07	Look Back 2021
15	徳山高専生の挑戦！継続は力なり
20	受賞・表彰ニュース
21	今年の就職・進学状況
23	令和3年度 就職・進学先一覧
24	わたしの就職進学STORY
28	Withコロナのキャリア教育支援プログラム
29	国際交流活動報告
31	高城寮より
33	学生会活動
35	留学生だより
36	退職教職員から
38	高城会から令和3年度の母校支援／談ラン会／編集後記

巻頭言

# 学びのデジタル活用からさらに先へ



徳山工業高等専門学校 校長  
勇 秀憲

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の猛威は緩むことなく、2021年度もその対応に迫られました。2022年1月、さらに新しい変異株が日本全国で爆発的な感染拡大の中にあります。本校では、学生と教職員の健康と生命を守る「安全と安心」を基本方針とし、「徳山高専COVID-19対策基本方針」に基づき、「徳山高専におけるNew Normal Standard」の行動基準と活動基準の各レベルを感染状況に対応して変更し、「学びを止めず」質保証された教育研究活動を続けています。

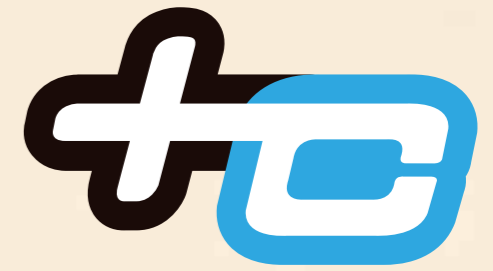
2021年度は4月初通常の対面授業で始まり、感染状況により4月下旬の4日間臨時休校と1週間の遠隔授業を経て、感染防止策をあらためて再確認し、5月連休明けから対面授業に戻りました。夏の全国的な感染拡大第5波の中、夏休みを1週間延長し、1週間余りの遠隔授業の後、対面での前期末試験・レビュー週間、そして10月後期から現在までの対面授業へ続いています。対面授業、遠隔授業やハイフレックス授業

(対面と遠隔で同じ内容の授業を同時に)、ブレンド授業(対面と遠隔を効果的に組み合わせる)などのハイブリッド授業を含め授業形態はこのコロナの中で様々に変化してきました。学生たちは常期的確に対応してくれています。高専機構モデルコアカリキュラムによる質保証の基で、積極的にICTを利活用して教育効果を高めた教育研究活動のデジタル活用(DX)・デジタル・トランスフォーメーションをさらに推進していかねばなりません。高専統一ネットワークの整備、授業コンテンツの高専間共同利用、学校でのBYOD(注1)推進、授業へのAR/VR(注2)技術の導入、教員の授業スキルアップ、情報セキュリティ対策、各種教育データの活用などを確実に進めることです。

とはいえ、学生同士、学生と教職員などがヒトとして互いに対面で接することは非常に重要で決して欠かせません。学生への迅速で適切な学習支援、メンタル支援などはもちろん学校一体となって取り組まねばなりません。

今後の予測不可能なSociety 5.0時代では、普遍的な知識、スキルと汎用的技能(人間力など)を幅広く横断して身に付けること、また時代の変化に合わせて社会を積極的に支え、論理的思考力を持つて社会を改善していく資質を育むことが求められます。そこでは、学生が「何を学び、何を身に付けることができたのか」という学習成果を一人ひとりに対し可視化した上で、学びの多様性と柔軟性を確保し、それが生涯の学びにつながるようになる必要があります。そのための学びは、主体的で個別最適な学びと協働的な学びにより実現されます。特に分野を越えたSTEAM(注3)教育、データ活用のための数理・AI・データサイエンス教育の学びにより実質化されます。

本校では、こうした教育を今後加速的に展開します。学生、教職員、保護者の方々や地域社会などが一体となり協働して、学生たちが楽しく「学び」、活発な諸活動ができる学校環境をさらに進めます。



## 徳山高専

National Institute of Technology,  
Tokuyama College

### 施設リニューアル!



2021年3月にテクノ・リフレックス教育センターの改修工事が竣工しました。旧ビロティ研究室は、オープン・ラボに生まれ変わり、ロボコンのリモート会場等に活用されています。

### 表紙作品



表紙は、徳山高専の魅力を学生が表現した動画コンテスト『NITTC動画コンテスト』～ショートショート部門～でグランプリを受賞した「異色無彩」で使用された3D映像を別の角度から撮影したものです。

### 5つのC

1. **C**reation / 創造
2. **C**hallenge / 挑戦
3. **C**ooperation / 協働
4. **C**ommunication / コミュニケーション
5. **C**ritical thinking / 批判的思考

## 徳山高専が目指すもの

副校長 教務主事

西村 太志

徳山高専で五年間学ぶことにより、次に示す七つの能力を身につけることができます。

- ① **基本的能力**  
数学、自然科学、人文・社会科学、工学基礎など、工学の専門知識や技術の修得に必要な能力。
- ② **専門的能力**  
それぞれの専門分野及び複合分野にわたる技術者として備えるべき能力。
- ③ **汎用的技能**  
技術者として必要となるコミュニケーションスキル、合意形成、情報収集・活用・発信力、課題発見、論理的思考などの技能。
- ④ **態度・志向性(人間力)**  
技術者として必要となる主体性、自己管理能力、責任感、チームワーク力、リーダーシップ、未来志向型キャリアアデプティンなどの能力。

- ⑤ **創造的思考力**  
技術者として必要となる創成能力やエンジニアリングデザイン能力などの思考力。
- ⑥ **異文化対応力**  
技術者として世界のごくでも必要となる教養と感性を持ち、グローバルな視点で異文化に対応する能力。
- ⑦ **倫理的判断力**  
世界のどこで活躍しようとも必要となる判断基準を持ち、技術者として自らの技術を公衆の安全、健康、福利を優先して活用するための能力。

これは、近未来のエンジニアとなる皆さんが、新たな時代を豊かに生きるために必要な能力として定めたものです。低学年から系統的に学ぶことにより、これらの能力が身につくように、各学科でカリキュラムが定められており、カリキュラムを基に、各授業が組み立てられています。各授業で学ぶ内容



は毎年見なおされ、ブラッシュアップされていますが、身につけるべき内容には変化はありません。しかしながら、身につける方法は大きく変化しています。

我が国では、2016年に「第五期科学技術基本計画」において、サイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(現実空間)を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会として「Society 5.0」が提唱されました。さらに2021年の「第六期科学技術イノベーション基本計画」において、「持続可能性と強靭性を備え、国民の安全と安心を確保することともに、一人ひとりが多様な幸せ(Well-being)を実現できる社会」としてSociety 5.0が再定義されており、現在、その実現を目指しています。また、これまではあまり実感してこなかったデジタル化の波も、コロナ禍において急速に進んだオンライン環境の急速な普及によってその影響力を目的の当たりにしました。それに加え、AI(人工知能)の飛躍的進化等により、我々の生活もDX(デジタルトランスフォーメーション)による変化が始まっています。

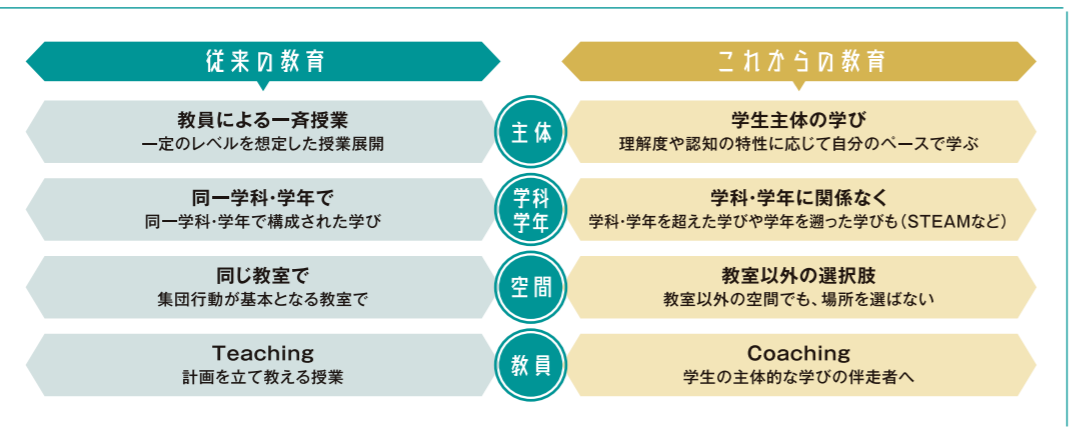
教育現場においても、コロナ禍をきっかけに、当たり前と考えられていた教育のあり方が、根本的に問い直されています。

■ 従来通りの授業形態(対面授業)だと「三密」を回避するのは困難

- ▼ なぜ全員がキャンパスに集わなければならないのか?
- オンライン授業を体験し、その利便さやより良い教育へと活用していく可能性に気がついた
- ▼ 全ての授業を従来通り、対面で行わなければならないのか?
- ▼ 同一学科、同一学年による授業だけでいいのか?
- ▼ 一斉にみんなが同じ進捗で授業を受けなければならないのか?

これらの気づきは、Society 5.0時代、DX、そしてアフターコロナをキーワードとして、「一人ひとりの多様な幸せと課題への挑戦を実現する教育・人材育成」への抜本的な転換が求められることを意味しています。本校においても、次に示すように、学生にとってさらに教育効果の高いICTの活用や教育改善を順次進めています。

学科により導入時期は異なりますが、2019年度からBYODを導入しています。学生個人が所有する



デバイスを使って家庭でも学校と同じ環境で学ぶことができますし、遠隔授業を受講しなければいけない状況になっても、BYOD端末を活用することで、「学びを止めない」体制を維持することができます。現在は、

Microsoft 365を利用した授業を行っています。来年度に向けて新たに学習管理システム(LMS)を追加導入する計画です。これにより、対面授業と遠隔授業を組み合わせ実施できる環境が整備でき、オンデマンド型配信のための環境も用意できます。学生の皆さんには、入学時から卒業後までをサポートできるポートフォリオシステムを提供できるようにいたします。

また、学生の数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、それを適切に理解し、活用する基礎的な能力を育成することを目的として、学校として体系的な教育を行っていることを認定する制度である「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)」に申請予定です。

各学科で学ぶ内容については、学科ごとにカリキュラムの見直しを行っているところですが、分野横断的能力を育成するために、一年生〜三年生でSTEAM(学科横断・学年縦断科目)の導入も計画しています。

これ以外にも色々な改善を計画していますが、基本は学生が主体となった教育へ転換し、多様で柔軟な学びを実現するとともに、個別最適化した教育の質保証体制を構築することです。詳細が決まることにお知らせしていきたいと思えます。

# テクノロジーで共生社会の形成に挑む！

## 誰にでも地球にも優しい未来型技術者育成の取り組み

機械電気工学科  
准教授 三浦靖一郎

「昔前に「あったらいいな」でできたらしいな」と思っていたことが、科学技術の進歩により実現できるようになり、その結果、私たちは便利な製品やサービスに囲まれた生活ができるようになってきました。さらに多くの方が便利な生活ができるようになるためには、これまで以上に社会の困り感に気づき、個々のニーズに耳を傾けることが重要になると思います。

一方、世界では、平均寿命は延びており、高齢化社会への対応が課題となっています。さらに、地球環境や資源、人権、そして、新型コロナウイルス感染症など、地域や国、老若男女、文化などを超えて、広範囲かつ複合的な問題が増えています。

このような時代を生きるための正解はわかりませんが、人や社会の困り感に気づき、それを改善・解決することができたら、それを実行した充実感と共に、相手から感謝や対価が返ってきたら、それは、私たちが返すべきことです。そこで、私たちは、2014年度から「誰にでも地球にも優しい技術者育成」を目標として、社会の困り感を科学技術で低減

を試みる教育研究活動をはじめました。当時は、研究室の学生1名でしたが、今では学年・学科・男女問わず学生10人以上が参画しています。その活動をいくつか紹介します。

### IoTプロトタイピング講座



SONY製MESHを使ったIoTプロトタイピング講座(60分程度)です。これは、プログラミングの基本学習とあったらいいなと思う作品づくりと情報共有をすることで、参加者に新しい視点や気づきを提供する、全くの初心者も上級者も楽しめる人気講座です。今年度は、活動趣旨に賛同された株式会社トクヤマいくとく塾と連携し、学生講師のもとで株式会社トクヤマ徳曹会館、児童家庭支援センターげっつと、周南総合支援学校、光市立岩田小学校、久米地区社協などで実施しました。

### ポッチャ用ランプ装置



ポッチャ用ランプ装置です。本来、ポッチャ競技は、機械は使用できません。しかし、ICTの活用により、これまで参加できなかった寝たきりの重度障害者も競技可能になります。これは、ポッチャをやりたいという当事者・支援者の声を受けた株式会社ユニコーン(意思伝達装置を開発販売)の試作機改良の相談が本校にあったことからはじまりました。同社と本校はこの装置の特許を取得し、学生2名も発明人となっています。

### 高齢者向けタブレット講座



高齢者向けタブレット講座です。これは、周南市久米地区社協から相談を受け、久米地区社協、久米市民センターなどと連携して、学生・教職員・市民センター職員が講師となり、地域の高齢者向けにタブレット端末やスマートホンの基本操作を教えるもので、すでに70人以上が受講されました。

困り感・障害を科学技術で改善できるケースは稀ですが、現状では解決・改善できない困り感・障害を知ることが、今後の学びや科学技術の発展の糧となっているようです。くわしくは、本校GEAR5.0HP(徳山高専 gear)で検索をご覧ください。みなさまからの情報やご参加をお待ちしております。



徳山高専  
ATチーム  
QRコード

## 徳山高専魅力発信プロジェクト

今年度、本校では学校広報の見直しの一環として、「徳山高専魅力発信プロジェクト」を行っています。これまでの本校の広報活動は、公式ホームページやFacebookなどテキストや静止画を中心とした媒体を主に活用してきました。しかし、コロナ禍にあつて授業はもちろん様々な学校業務がオンライン上で行われるようになってきたこともあり、今後の広報活動の中心的存在になることを期待して、昨年度10月に本校の公式YouTubeチャンネルを開設しました。このチャンネルには、各学科や有志教員の尽力により、徐々に様々な動画がアップロードされています。現在このような取り組みを学校全体として積極的かつ体系的に行い、学生も参画できる仕組みづくりを進めています。今回は、当プロジェクトで実施してきた多様な企画をいくつか紹介します。

### PR動画制作

これまでの学校紹介ムービーやパンフレットでは伝えきれっていない本校の教育活動や学生の様子を明確に伝えたいという考えから、現在いくつかのPR動画を制作しています。すでに完成している2つの動画は、本校のグ

ローバル人材育成に焦点をあて、現役学生と卒業生が今どんな人材に育っているか取材したものです。

1は、トビタテ留学JAPANや語学研修プログラムを経験した学生のインタビュー、モンゴルやアフリカからの留学生との交流イベントなど、本校の国際色豊かな取り組みを紹介しています。

2は、「卒業生人物図鑑」と銘打って、本校の卒業生がどのような進路に進み、またどんな目標や「野望」を持って、キャリアを進めているのか紹介するシリーズです。第1作品目は、専攻科から東京大学の大学院に進んだ、土木建築工学科出身の卒業生にフォーカスを当てています。



### 動画コンテスト

学生の学校PRへの参画として、今



年度「NITTC動画コンテスト」を実施しました。このコンテストでは、学校や学科、課外活動などを単に紹介するのではなく、学生たち自らの視点で切り取った本校の魅力を外に発信してもらうことを趣旨としました。今回、ショートショート部門、プロモーション部門にそれぞれ8件と5件の応募があり、動画配信を閲覧して「いいね」を押してもらうことによる一般審査も含め、厳正な審査により、各部門のグランプリと特別賞4作品が選出されました。結果発表も兼ねた表彰式もYouTubeでのライブ配信を行い、最後まで盛り上がるコンテストとなりました。

一般科目 准教授  
総合企画室長 倉増 泰弘

## 動画制作チーム発足

今後、本校のPR活動がますます活発になるためには、学校の魅力を一番知っている学生の力が必要です。そのような思いから、今年度動画制作チームが発足し、現在8名のメンバーで活動を開始しました。動画コンテンツで表彰式では、あくまで有志としてではありませんでしたが、式の司会や動画配信機器の操作を行い、初めての「仕事」を成功させました。今後、一つのチームとして、動画制作の企画から編集まで行程を手掛け、本校の魅力を余すことなく発信する中心となる活動してくれると期待しています。



アメリカでの勤務経験のある片山先生にお話しをうかがいました

片山 光亮  
KOUSUKE KATAYAMA



**張問:**徳山高専に来られる前はどちらにいらっしゃったのですか？  
**片山:**早稲田大学の北九州キャンパスです。  
**張問:**なぜ大学の教員になられたのですか？  
**片山:**大学在学中に海外で仕事をしたいと思っていて、そのためには博士の学位が必要だ、と思い込んでいたんですね。それで、博士課程まで進み、研究を継続しつつ海外も目指すということで旭化成に就職しました。  
**張問:**海外にはすぐに行けたのですか？  
**片山:**機会がありませんでしたので、入社2年目のときに、アメリカのXpedion Design Systemsという会社に入りました。小規模だけど技術力があって、自由な社風でした。  
**張問:**そこでの仕事はどのようなものでしたか？  
**片山:**ここでも旭化成時代と同じような感じで、RF回路の設計やRF回路の設計シミュレーターを作っていました。  
**張問:**ずっとそちらに在籍されていたのですか？  
**片山:**会社が老舗の大手企業に買収されてしまい、同僚の多くは辞めてしまいましたが、私はそのままそちらの社員になりました。元々アメリカに行きたかったのは、これからは日本も真の資本主義になるので、その実態を見ておく必要があると思っていました。そういう意味では、良い経験だったと思っています。  
**張問:**なかなか厳しい社会ですね。買収された先の会社で、勤務は続けられたのですか？  
**片山:**はい、研究開発を続けていたのですが、技術のことを日本で説明できる人間が必要だ、ということで日本法人への転勤を命じられました。  
**張問:**それって、営業ですか？  
**片山:**はい、営業部門です。気が進みませんでしたが、「2年間だけ」という約束で行くことになりました。  
**張問:**2年経って、またアメリカに戻られたのですか？  
**片山:**それが戻れませんでした。「2年だけ」と言っていた上司は、実はM&Aを仕切っていたコンサルタント会社から一時的に派遣されていた人物で、本社にかけあってもどうにもなりませんでした。  
**張問:**それでどうされたのですか？



アメリカ在任時の片山先生(中央)

**片山:**アメリカに戻れる見込みがなくなったタイミングで、学会で知り合った日本の大学の先生が起業したベンチャー企業に誘われまして、そちらに入りました。ですが、詳しくは言えないのですが資金繰りが悪くなりまして、私の給料も払えないということになり、退職することになりました。その後1年間は就職浪人です。  
**張問:**アメリカでの企業買収より、こっちの方が大変ですね。  
**片山:**はい、大変でした。  
**張問:**それで、早稲田大学に？  
**片山:**いえ、出身大学の研究員をしているときに早稲田大学の北九州キャンパスで公募が出ましたので、そちらに応募して採用されました。  
**張問:**やっとならぬ早稲田大学に辿り着きました(笑) そちらは終身雇用だったのですか？  
**片山:**いえ、任期が5年でしたので、4年目に徳山高専に応募して、採用されました。  
**張問:**ようこそお越しくださいました。なかなかドラマチックな展開ですね。高専の学生の印象はいかがでしょう？  
**片山:**若いので初々しいところもありますし、純粋だと思います。  
**張問:**高専の教育そのものについての印象はいかがでしょう？  
**片山:**全体のシステムの把握はこれからですが、細かいところ言いますと、教科書は専門性の高いものを使っていて、自由度が高い中でしっかり教育しているな、という印象です。  
**張問:**これまで経験のなかった校務についてはいかがですか？ 今、寮務主事補でいらっしゃいますね。  
**片山:**学生と近い距離で関わることが多いので、「教育している」という実感が強いです。  
**張問:**国際交流室の室員も兼任されていますね。国際交流についてはどのようにお考えですか？  
**片山:**海外に行くなら、絶対に若いときの方が良いですね。もちろん、行く、行かないは個人で決めれば良いことだと思っていますが、行くのなら、若いときの方が良いです。年を重ねると、食事が体に合わなくなる(笑)  
**張問:**コミュニケーションスキルについてはどのように思われますか？  
**片山:**そんなに気にする必要はないと思います。人種も性格も色々あるので、必要なことが伝えられたら十分だと思います。  
**張問:**今後、高専でどのような教員になりたいと思っておられますか？  
**片山:**建学の理念にあるように、技術を愛する人を育成したいですね。資本主義の社会ではお金で技術を買う人もいて、それ自体を否定するわけではないけれども、自身のアイデンティティを「技術を持っている、技術を愛している」に置く人を育てたいです。  
**張問:**建学の理念を具現化される、というのは大変頼もしいです。最後に、学生にメッセージをお願いします。  
**片山:**高専を卒業した、ということは、社会からは「技術を持っている人」と見られることになります。その信頼を裏切らないように、技術を持って信頼される人になってください。  
**張問:**最後も建学の理念で締めさせていただきました。片山先生、ありがとうございました。  
**片山:**ありがとうございました。



クリエイションルーム3：材料工学



クリエイションルーム4：熱工学



クリエイションルーム5：流体工学

### 01 令和3年度より クリエイションルームが本格稼働

令和2年3月にクリエイションセンター(旧実習棟)の改修が完了し、材料工学、熱工学、流体工学の3実験室が、それぞれクリエイションルーム3、4、5としてクリエイションセンター内に再配置されました。令和2年度前半は学生の登校も制限されていたので、後半から再配置後の整備を進め、令和3年度から本格的に研究や「工学実験」の授業で使用する実験室として稼働しています。



パブリックビューイングと報道陣による取材の様子

### 02 KOSEN-1 打ち上げ

徳山高専も開発に携わった国立高専初の人工衛星KOSEN-1が、JAXAイプシロンロケットによって打ち上げられました。当初の打ち上げ予定は10月1日(金)で、県内のテレビ局全局と新聞各社の取材陣が訪れる中、機械電気工学科5年生の授業でパブリックビューイングを行いました。開発グループの一員である北村先生(現九州工業大学教授)にもオンラインで参加していただき、取材対応していただいたのですが、打ち上げまで10秒ちょっとと

なったところでカウントダウンが中断し、打ち上げは延期されることになりました。再設定日の10月7日(木)も、初日と同様に報道陣が見守る中、今度は機械電気工学科3年生の授業でパブリックビューイングを行いました。が、この日も打ち上げは行われず、延期されることとなりました。最終的には、11月9日(火)に無事に打ち上げが成功しました。この日は報道陣による取材もなく、打ち上げの様子は機械電気工学科5年生のとある授業でひっそりとライブ視聴されました。

## 情報電子工学科

### 03 2年生 クラス研修

5月15日(土)に国立山口徳地青少年自然の家で情報電子工学科2年生の研修が行われました。午前中は焼板細工を行い、木の板を焼いた後に表面を磨き、その板に好きな言葉や絵を書きました。午後はチームで協力して様々なゲームを行いながら参加者の成長を促すTAP(徳地アドベンチャー教育プログラム)が行われました。級友とより親睦を深め、充実した1日となりました。



### 04 学科イベントで学生が大活躍

公開講座・出前授業・校内見学会などにおいて、IE学生達が補助学生として活躍しました。また、合同説明会では、自宅や寮と説明会会場をオンラインで結び、質問にお答えしました。

**オンラインで相談に対応**

**7~8月合同説明会**  
会場:下関/山口/岩国

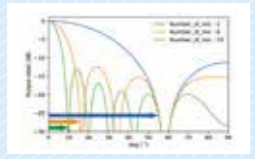
**8月/11月 校内見学会**

**2月 出前授業**

**8月 公開講座**

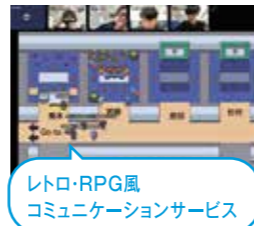
### 研究室紹介 宮崎研究室

「音」は昔から使われている、一般的なコミュニケーションツールです。宮崎研究室では「音」を対象とした研究として、AIを活用した基礎理論、橋梁の保全や誤嚥検知等の社会還元を学生と共に進めています。



### 05 オンラインホームカミングデー

情報電子工学科の卒業生を対象としたオンライン上でのホームカミングデーを実施し、卒業生と教職員が交流する機会を設けました。オンラインだからこそ遠方の方も参加することができ、卒業生の公私の近況報告など、新たな形態でいろいろな交流ができました。



レトロ・RPG風コミュニケーションサービス

### 新任教員紹介

荻原 宏是 先生



令和3年9月1日付で情報電子工学科・助教に着任いたしました荻原宏是と申します。専門はパターン認識で、主に患者個々に予後予測する人工知能の研究に取り組んでいます。着任して約4ヶ月、授業のほかにクラブ活動や寮務など学生と関わる機会是非常に多く、そんな皆さんがより充実した高専生活を送れるよう、微力ながらサポートさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

### 01 授業のDX(デジタル・トランスフォーメーション)

PC室と同じ環境を教室や自宅で

情報電子工学科の授業や実験・演習でもデジタル技術を積極的に活用しています。自宅から学校のサーバコンピュータに接続し演習をしたり、自分のPCから課題を提出したりすることができます。

**学校のサーバの画面**

自宅のPCにサーバの画面を表示(4年生)

**提出した課題**

**添削コメント**

課題提出・添削(1年生)

### COVID-19対策にもBYOD

実験・演習は協力・教え合うことが大切です。クラスの半数が演習室に移動することで密にならずに、グループで実験・演習を行っています。

**IE 電算機室**  
ディスプレイを活用したい人、ノートPCを持っていない人

**2スタ(演習室)**  
BYOD端末使用  
1人1口電源利用可

広々とした部屋で話し合いながら実験・演習

### 02 オンライン・オンデマンドのスキルアップ中

教職員だけでなく学生も課題提出や発表等で動画作成する機会があり、いろいろ挑戦しながらスキルアップ中です。徳山高専SHORT MOVIE CONTESTでも3名が審査員特別賞に選ばれました。また、卒業生が中学生・高専生に向けてメッセージ動画を作成してくれています。

**在校生・卒業生のメッセージ**

<https://iehp.tokuyama.ac.jp/IE-Home/msg.html>

**中学生向けWeb体験ページ**

<https://iehp.tokuyama.ac.jp/IE-Home/ievoc.html>

### 応用情報技術者試験に合格

10月10日に行われた応用情報技術者試験に合格することができました。この試験ではコンピュータの基本動作から、ネットワーク、セキュリティ、マネジメントなど広い分野への理解が求められます。合格することが全てではありませんが、勉強をすることで、問題に対する解決方法をより多く考えつこうことができるようになると思います。まずは申し込みをしてから勉強を始めるのがコツです。ぜひ受験してみましょう。



## 01 CA伝統行事 コロナ禍でもやりきりました! 集中測量実習

集中測量実習を実施できたのは、保護者のみなさまを始めとする、関係者みなさまの多大なご理解・ご協力があったからです。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

in 周南緑地公園  
(stay at 高城寮)

45期生：2021/2/23~26実施



in 大田原自然の家

46期生：2021/10/19~22実施

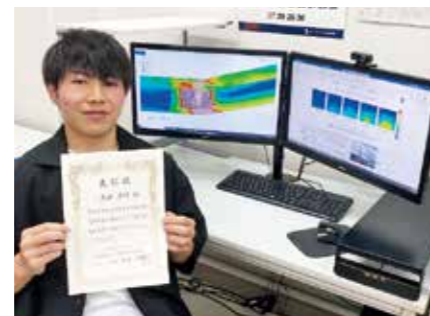


## 02 CAの活躍は学外でも認められています!

今年も多数のコンテストで賞を受賞しています。



SAWATA ウッドデザイン賞 大賞  
バス停留所部門  
綾木 才子さん



土木学会中国支部 若手優秀発表者賞  
丸橋 憲伸さん



発明協会 発明奨励賞  
温品 達也先生

KAZAGURUMA ベンチ日よけ部門  
渡邊 高弥さん 鎌池 凌生さん

## 土木建築工学科



# 2021年

## 今年もCAは歩み続けました!

~学ぶ・楽しむ・想い続ける心を忘れずに~

授業風景・校外実習・課題活動・現場見学他



2021年度より始動!  
建設プロジェクト(建プロ)  
学生が主体となり、土木建築技術を駆使して物作りします。  
「成功も・失敗も大歓迎!」今年度はレンガブロックの製作に挑戦しました。

学科オリジナルムービー絶賛公開中!

徳山高専土木建築工学科 youtube

ありのままの日常生活をお伝えします!

徳山高専土木建築工学科 cahp

一般科目

LEGIT#02

柳本 萌子先生

今年が2年目の柳本先生は、1年目の昨年度は産休だったので、今年度が実質高専教員初年度です。そんな柳本先生は以前大阪の高校でも教えていた経験をお持ちです。いつも優しい柳本先生はどんなことを考えながらお仕事されてるんでしょうか。



**倉増:**高専で教えてみて、率直な感想を教えてくださいませんか？  
**柳本:**学生たちは素直で真面目な子が多いので、授業がやりやすくてとても助かっています。あと、自然豊かでいいなって思います。  
**倉増:**そうですね。以前は大阪の高校で教えられていたということですが、高校と高専ってどんなところが一番違うって感じますか？  
**柳本:**やはり大学入試を受験するかどうかですかね。何だかんだ言っても、高校って結局入試のために勉強しているのが否めないですよ。それに比べて高専生は将来を見据えて勉強しているという感じで、いつもすごいなって思っています。  
**倉増:**そうですね。それは私も高専に来たときに感じましたね。少し話は変わりますが、先生は何かスポーツとかってされてたんですか？  
**柳本:**ちっちゃい頃からスキーとテニスやりましたね。中学時代はハンドボール部でしたね。最近はスポーツをあまりしていませんが、スポーツ観戦も好きなので、こっそり学生の試合を見に行ったりしています(笑)。夏は3年生野球部の応援に行きました。授業とはまた別の真剣な眼差しや戦い抜く姿を見るのが好きです。  
**倉増:**そうですね。スポーツ以外に興味とかありますか？  
**柳本:**ピアノを弾くことですかね。たまにメディアホールのピアノをこっそり弾いたりしてます(笑)  
**倉増:**そんなことされてるんですね(笑)次に今回インタビューしているお二人とも大阪ご出身なので、ぜひ大阪の好きなどを教えていただきたいのですが。

**柳本:**食べ物ごとにかく美味しくて安いことですね。ハッピーアワーはビール50円!  
**倉増:**おお、いいですね。大阪のおばちゃんって餃ちゃんをいつも持っているって本当ですか？  
**柳本:**偏見です(笑)私は持ってません。  
**倉増:**先生はおばちゃんではないですが、何かすみません…では、先生が教えるときに大事にしていることやモットーってありますか？  
**柳本:**授業は学生とともに作るものっていうのをいつも意識していますね。学生と一緒に授業を作る中で、学生の生き生きした表情を見たときには、本当に楽しいなって思います。  
**倉増:**最後ですが、学生に何か一言お願いします。  
**柳本:**学生のみなさんとたくさんお話したいです。まだまだ知らない人もたくさんいますが、気軽に声をかけてくださいな。  
**倉増:**ありがとうございました。

柳本先生の普段とは違う側面が見れて、とても楽しいインタビューになりました。皆さんも是非柳本先生の研究室に足を運んで仲良くなってみましょう。

LEGIT

昨年の高専だよりで好評だった一般科目教員紹介企画LEGITの第二弾です。今回は着任されて間もない北先生と柳本先生にお願いして、フレッシュな先生方から見た徳山高専ってどんなところなのか、これからどんな学校にしていきたいかなど質問してみたいと思います。なんとお二人とも大阪ご出身ということで、大阪の魅力なんかも聞いてみましょう。お二人はどんなlegitな側面をお持ちでしょうか。

LEGITとは？

legitは、元々「合法の、正当な」という意味を持つlegitimateの省略表現で、「質が高い、ホンモノ」という意味のスラングです。日本語で言えば、「マジで」とか「ガチで」に当たり、ネイティブスピーカーが何かかっこいいものやイケてるものを表すために日常的に使われています。

LEGIT#01

北 哲也先生

徳山高専に来られて1年目の北先生は、体育教員として9年間教鞭をとっておられます。体育の先生として厳格な印象のある北先生のちょっと違う面を切り取ってみたいと思います。



**倉増:**いきなりですが、大阪の好きなどって何ですか？  
**北:**大阪出身ではありませんが、特別愛着があるわけではないです。ただ、吉本新喜劇は好きですね(笑)  
**倉増:**さすが大阪人ですね(笑)。次に、徳山高専に来られて率直な感想を教えてください。  
**北:**真面目で大人しい学生が多いですが、個別に話すとしっかりと自分の意見を述べるすることができます。やはり優秀だと思います。  
**倉増:**先生は野球部の顧問もされていますが、部活や体育の授業で、教えていて楽しいと感じる瞬間ってありますか？  
**北:**体育・スポーツでは「できた!」という感動を全身で強く味わうことができます。学生が、これまで出来なかったことが出来るようになったときに、その喜びを「やった!」と全身で表現している様子を見ると、私自身も幸せな気分になります。スポーツは見ている人に感動を与えるとよく言われますが、日々その瞬間に立ち会えるのは大変素晴らしい、ありがたいことです。  
**倉増:**なるほど。体育やスポーツを教えることの独特な素晴らしさですね。スポーツ以外に何かご趣味ってあるんですか？  
**北:**ゲームが大好きです。ドラクエが特に好きで小さい頃からずっとやっています(笑)  
**倉増:**スポーツマンの先生がゲーム好きだなんてすごく意外ですね!他に何か好きなことってありますか？

**北:**漫画が大好きですね。週刊少年ジャンプは毎週買って読んでますね。  
**倉増:**意外すぎでしょ(笑)ありがとうございます。では、もう最後なんですけど、学生に一言お願いしてもいいですか？  
**北:**学生時代の学習習慣は非常に重要です。どの授業でも一生懸命に勉強してほしいと思います。将来、仕事に就いてからも勉強しないといけないことはたくさんありますが、そのとき土台となるのは、これまでの「学び」のプロセスです。苦手な科目があっても、サボってしまうとそれが癖となります。勉強以外の場面でも言えることかもしれませんが、どんな時も全力で自分の可能性を伸ばす努力をすることが大切です。  
**倉増:**ありがとうございました。

北先生のお茶目な側面が垣間見るとても良いインタビューになりました。体育の先生として普段厳しくもあり、優しい北先生について、もっともっと知りたくなりましたね。

一般科目英語科の取り組み

一般科目英語科では、令和2年度からオンライン英会話を本格的に導入し、受講率を成績の一部として加味する取り組みを行っています。これはグローバルエンジニア育成事業の一環で、本科1年生と3年生が後期授業期間に受講するというものです。1年生は1回15分、3年生は1回25分で全8回のレッスンを受講しています。講師はフィリピンにある語学学校で実際に教鞭を取っておられる方々で、フィリピン人特有の元気いっぱいのレッスンは、コミュニケーションが苦手な日本人にも大変好評です。

今年度は、昨年度とはまた違った語学学校にお願いし、マンツーマンレッスンだけでなく、定期的に授業の中でオンライン交流も実施しています。中でも、フィリ

ピン人学生との交流イベントでは、現地の16~18歳ぐらいの学生と英語で交流し、フィリピンの高校と日本の高専との違いについてQ&Aを通して、お互いに知る良い機会となりました。写真は1年生がフィリピンの高校生と交流したときのものですが、フィリピンの学生さんたちが堂々と英語でプレゼンする姿に刺激されながら、本校の学生たちも積極的に発言したりリアクションを取ったりする風景は、コロナ禍にあっても海外に渡航できない中、大変喜ばしく、有意義でした。





# 徳山高専生の挑戦！ 継続は力なり

## 継承と成長の温故知新

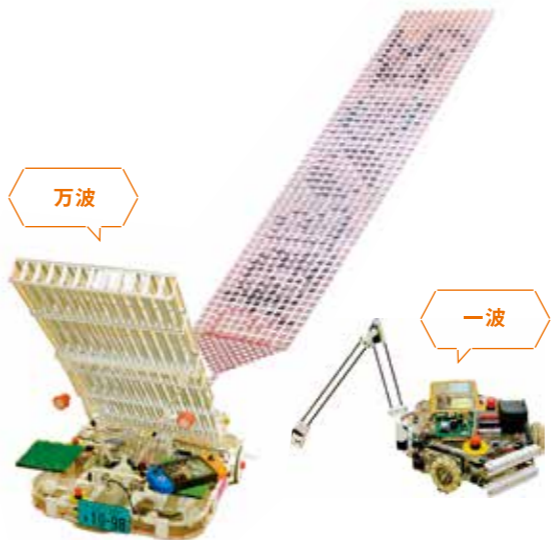
高専ロボコン2021

機械電気工学科 助教 / 指導教員  
池田 将晃



高専ロボコン2021の大会テーマは「超絶機巧(すごロボ)」でした。これは各チームのこだわりの技術や挑戦したい技術を徹底的に追及した「すごい！技のロボット」を製作してパフォーマンスするという内容です。昨年度の高専ロボコン2020と同様に課題の設定やロボットの見せ方は出場チームに委ねられる形の大会テーマとなりました。活動する人数や時間等の制約から徳山高専からは一チームが出場し、中国地区大会では準優勝して全国大会への出場を果たしました。全国大会では惜しくも高得点を取ることはできませんでしたが、ロボットやこだわりの技術は他のチームにも負けないものであったように思います。今年度は全国大会のみ集合形式で東京の両国技館にて実施されました。昨年度は全てオンライン開催だったこともあり、集合形式での開催が決まった当時はロボットを直接披露できることや他チームとの交流ができることへの喜

びと期待が学生達からよく伝わってきました。徳山高専から出場したロボットのプロジェクト名は「一波万波(いっばはんば)」です。パフォーマンスの「ドミノアート」を実現するため二台のロボットづくりに取り組みました。最終的に2分間の競技時間で753個のドミノを使ったドミノアートを作り上げるこ



とができるようになりました。一台目のロボット「万波」は自動制御により約一分三十秒の間に全ての自作のドミノをフィールド上に並べたことを担当します。二台目のロボット「一波」はアームを持つ遠隔操縦型移動ロボットであり、万波が並べたドミノのドミノ倒しをスタートさせる役割を担っています。プロジェクト名の「一波万波」は「一波(いっば) 纒(わす)かに動いて万波(まんば) 随(したが)う」という言葉を基にした、小さな事件でもその影響は広範囲に及ぶということのたとえを表す言葉です。これは徳山高専のロボットが扱うドミノアートができあがるまでの様子をよく表現する言葉であり、ドミノアートの成功を願ってこの名前が採用されました。

たことと上級生の人数が少なかったことで、大会会場の独特の空気感などを知らない学生が多い状況でした。オンライン形式では比較的自由にできていたことも、集合形式では様々な制約が多い中で工夫する必要がありました。このようなノウハウを先輩から後輩へ伝えたり、経験者と初心者と同じ空間を共にしたりする機会が成長と支え合いの精神を育むために非常に貴重で重要であることを改めて実感しました。高専ロボコン等のコンテスト類へ継続して参加するための場づくりは、個々の能力を伸ばすだけでなく、グループ開発の難しさや楽しさを経験し、完成や勝利、社会貢献などの成功体験を得るための場として今後も時代に合った形で継続していくことが重要と感じます。そのためにも、今後も技術やノウハウの継承と新しい技術を取り入れた成長のバランスが取れたものづくりの場づくりを意識して行きたいと思えます。

## 激アツ！デザコン2021 構造デザイン部門

よく喋り、よく笑い、よく食べ、よく作る…そして準優勝

土木建築工学科 教授 / 指導教員  
海田 辰将

今年の構造デザイン部門の課題は、昨年と同様にケント紙でスパン90cmの橋の模型を製作し、その強さ・軽さ・美しさを競うというものでしたが、その難易度はケタ違いでした。まず、ケント紙の種類に指定が無いため、山ほどあるケント紙の中から厚さや材質を吟味し、作品の特性に合ったものを選ぶことから始めなければなりません。次に、支点間に9cmの高低差があるため、傾斜による力のアンバランスが生じます。そして何よりも50kgの静的荷重に耐えながら、重さ5kgの砲丸を通過させることです。これらの付加条件は、1m弱の模型に対しても本物の橋と同じ性能が要求されることを意味しています。

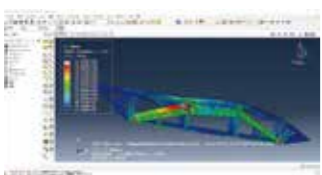
勢いで進んでいきました。設計と試作を繰り返しながら実験ベースで進めるチーム、研究レベルの構造解析による検討を重ねながら合理的に進めるチーム。個性はあれど全チームに共通するのは、元気で明るく賑やかなところ。マスクの上からでも喋る口と食べる口は止まらず、作る手が同時に動く様子は圧巻です。卒業生が差し入れてくれた1万円分のお菓子が1週間で無くなりまりました。



激アツ!校内予選

多少燃費は悪いものの、そこから創り出される作品のアイデア・性能はいずれも抜群でした。しかも4作品全てが全く異なるコンセプトであり、「人と同じものは作りたくない」「面白いものを作りたいたい」という本校デザコンチームの伝統マインドが色濃く出ています。校内

そこから4チームを編成し、10月末の校内予選で代表1チーム(6名)を決めて、本選に臨みます。今年のデザコン活動は、昨年のコロナ禍による鬱憤を晴らすかのごとく、怒涛の



構造解析で弱点を探る!

予選の時点で目標の耐荷重50kgを本選レベルの作品重量で全チームがクリアしていたのは、デザコン史上初めのことでした。どのチームが本選に出場しているか、きつと成果を残していたに違いありません。



載荷実験の一コマ

最後に指導教員からメンバーへ。「みんながじゃがりこが好きなのはよく分かった。器用にマスクの隙間から差し込むもんな…。お菓子の差し入れだけじゃなく、もっと技術指導で頼ってくれてもいいんだからねっつっ!」…完



和魁(なごみ) 重さ288g

「和魁」は、載荷点と軽重量の合計点数では3位であり、1位と3点差、2位と2点差だったのですが、審査員評価点(ブレ



緊張から歓声へ：本選での載荷実験



表彰式後の集合写真

# 全国高専英語プレゼコン・ 中国地区英語弁論大会

一般科目 英語科助教 / 指導教員  
**柳本 萌子**

## プレゼコンの紹介

徳山高専では、海外で活躍できる人材育成の一環として、「高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト」への参加に力を入れています。このコンテストでは、毎年1月末に開催される全国大会出場を向け、各地域で地区大会が行われます。地区大会には、プレゼン・シングル部門と暗唱部門があり、このうち全国大会出場権を得るのは、「シングル部門の1位2位のみ」という厳しさです。また、プレゼン・チーム部門も予選として同時期に動画による審査が行われ、上位約10チームのみが全国大会への切符を手にします。

今年度はこの中国地区大会(シングル部門、暗唱部門)に3名が出場しました。出場する学生は毎年11月に開催される大会の約3ヶ月前から、発表原稿の作成や発音だけでなく、最高のパフォーマンスができるようにアイコンタクトやジェスチャーなど細部に渡って準備をします。



英語プレゼンテーションコンテスト大会ポスター

**過去の実績**  
2020年度の大会は新型コロナウイルス感染症予防策の観点から、地区大会、全国大会

## 第1回 全国高専 インフラテックコン 最優秀賞

皆さん、「全国高等専門学校インフラマネジメントテクノロジーコンテスト」にご存知ですか? インフラテックコンでは、インフラの老朽化や多発する災害、メンテナンス技術者の育成、財源不足といった我が国が抱えるインフラ維持管理・マネジメントの課題を解決するためのアイデアを全国の高専生たちが競います。提案概要書による一次審査(予選)を通過すると、10分以内の「プレゼン動画」で最終審査が行われます。

その記念すべき第1回大会(2020)において、土木建築工学科4年稲田透直さん、中村央延さん、谷口敦哉さん、梅木遼大さん、同3年川邊颯大さん、山根秀太さん(チーム名わくわくピーナッツ)の提案「ICIT+スマホゲームによる気付けばインフラメンテ依存症!?」が全30作品の中から最優秀賞に選ばれました。今回、わくわくピーナッツの6人は、土木に全く関わりのない一般市民が「知



ゲーム名「インフラとるとる」

会とともに動画による審査が行われました。また、地区大会は全国大会の予選という位置づけではなく、別の大会として運営されました。中国地区大会のプレゼン・シングル部門には情報電子工学科3年(当時)の山本紗也さん、土木建築工学科3年(当時)の三浦舞桜さんが、暗唱部門には機械電気工学科3年(当時)の手島徳己さんが出場しました。これまでは異なる緊張感の中、3人とも個性あふれる発表で審査員を惹きつけました。結果としては山本さんが2位に入賞し、徳山高専は3年連続で中国地区大会での入賞を果たしました。全国大会には三浦さん山本さんが別途参加し、本戦出場となりました。結果としては、山本さんが日本工業英語協会会長賞(JSTC賞)に見事輝きました。

## 2021年度のプレゼコン

2021年度もコロナ禍の中、動画審査による大会が開催されました。中国地区大会暗唱部門には情報電子工学科2年市子原莉緒さん、プレゼン・シングル部門には土木建築工学科3年長谷川京香さん、機械電気工学科4年手島徳己さんが参加しました。市子原さんは、セヴァン・スズキさんの環境問題に関するスピーチ

## わくわくピーナッツとゆかいな仲間たち

らず知らずのうち「橋などのインフラの維持管理に参加し、そして興味をもち、さらに新たな財源まで創出するしくみとして、AI画像診断や次世代高速通信技術を活用したスマホゲームのアイデアを提案しています。最終審査のために彼らが製作したプレゼン動画には、その世界観がリアルに表現されていますが、いずれも元気のよい男子6人が製作しただけあって、コロナ禍における10代の若者らしい斬新なアイデアとともに若干の「悪ノリ」も爆発していますので、徳山高専公式 YouTubeまたは土木建築工学科HPからぜひご視聴ください。



提案動画2021の二コマ(破竹戦隊バツサイジャー) 提案動画2021の二コマ(デババイダ)

まさかの最優秀賞の知らせにメンバーたちは大喜び、副賞の賞金20万円について「まずはपोर्टレースで倍

を独自の口調で熱演しました。また、手島さんはダーツ、長谷川さんは循環型経済について、熱い想いをぶつけました。この中で、長谷川さんが2位に入賞し、全国大会への出場を果たしました。プレゼン・チーム部門には情報電子工学科4年山本紗也さん、土木建築工学科4年福永冴月さん、三浦舞桜さんが出場し、「量子



### 暗唱部門

情報電子工学科 2年 市子原 莉緒さん  
部活もあり、練習が思った以上に大変でしたが、自分と向き合う大事な時間になりました。



### プレゼンシングル部門

機械電気工学科 4年 手島 徳己さん  
2度目の出場でした。効果的なジェスチャーや、発音により磨きをかけることに重点を置きました!



### 土木建築工学科 3年 長谷川 京香さん

発表内容の構成、スライド、発音全てにおいて最初は修正が多く大変でした。でも、原稿を常に持ち昼夜問わず練習した甲斐あってか、地区大会2位を受賞することができました!



### プレゼンチーム部門

情報電子工学科 4年 山本 紗也さん  
土木建築工学科 4年 福永 冴月さん 三浦 舞桜さん  
全員の考えをまとめるのが大変でした。練習では互いにアドバイスしたり、各自が責任感を持って練習に励みました。

力学」をテーマに人間の思考が周囲に与える影響について語りました。難しいテーマへの挑戦でしたが、トップで予選を通過し、見事全国大会出場を決めました。それぞれ限られた時間の中で慣れない発音やジェスチャーの練習によく励んでいました。これからも何かに果敢に挑戦する姿を見せてくれることを期待します。

土木建築工学科 教授 / 指導教員  
**海田 辰将**

## 提案動画は こちらから

インフラテックコン  
2021  
提案動画

わくわくピーナッツ  
提案動画



インフラテックコン  
メンバー募集中!

第1回インフラテックコン2020  
最優秀賞  
わくわくピーナッツ



# 全国高等専門学校 プログラミングコンテスト

## 餅山 歩武

機械電気工学科 2年

私たちは自由部門に「大筆を体感！AR書道」というVRゴーグルと特大筆デバイスを用いることで疑似的に特大筆による書道を体感できるシステムを提案し、資料による選考で予選を通過しました。本選にむけての開発はチームメンバーで役割分担して進めました。私はプログラムの開発をしたことがなかったため、かなり苦戦しましたが、顧問の力先生や先輩に相談することでなんとか乗り切ることができました。



本選では力及ばず優秀作品として選ばれませんでした。良い経験になりました。その経験を活かして今年度は優秀作品として受賞することを目指していきたいです。

## 広政 遼汰

情報電子工学科 4年

私たちのチームは競技部門に参加しました。競技部門のルールは、バラバラになった画像を元の画像に復元するというものでした。今回、私はチームのリーダーとしてチームのマネジメントもしていました。初めてのマネジメントということもあり、コロナ禍で学校にこれないメンバーの進捗が把握しきれなかったり、各々にあった仕事をうまく振り分けることができなかったりと、チームメンバーの進捗の管理や仕事の分担などに非常に苦労しました。このようなことや、実力不足もあり、本番当日までに動くプログラムが用意できませんでした。ただ同時に学べたことも多く、非常にいい経験になったと思います。

# パソコン甲子園2021

全国高等学校パソコンコンクール（通称「パソコン甲子園」）は、全国の高等学校の生徒や、高専の3年生までの学生を対象としたチーム対抗の競技大会です。今年度は、情報電子工学科2年棟近祐希さんと機械電気工学科2年安仲巧真さんのチームがプログラミング部門に参加しました。プログラミング部門では競技開始時に提示された十数問の問題を解くためのプログラムを作成します。4時間（予選は

3時間）の競技時間中に、より難しい問題をより多く解いたチームに高い得点が与えられます。予選は、コロナ禍で登校できなかった9月に棟近くんの自宅でオンライン実施し、参加481チーム中28位の好成績で本選への参加を決めました。今年度は本校の教室から参加しました。本選の成績は参加56チーム中14位の素晴らしいものでした。



棟近さん(左)と安仲さん(右)

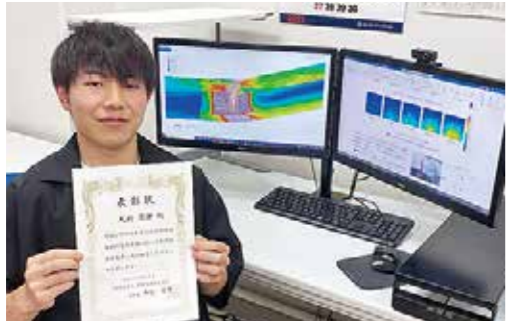


# 受賞・表彰ニュース

本校ホームページ「News&Topics」に掲載されたものです。



第9回全日本高専バレーボール選手権大会 準優勝  
バレーボール部



第73回土木学会中国支部研究発表会 若手優秀発表者賞  
環境建設工学専攻 1年 丸橋 憲伸さん



第64回中国高等学校ソフトテニス選手権大会 出場  
土木建築工学科 3年 新枝 千聖さん 元永 真菜さん



クリエイター参加型のAR広告コンテスト 優秀賞  
機械制御工学専攻 2年 田中 勇真さん



日本音響学会 学生優秀発表賞  
情報電子工学専攻 2年 河村 泰雅さん



令和3年度前期メダル栄光(文化賞)  
インフラテクコン2020出場チーム「わくわくピーナッツ」



SAWATAウッドデザイン賞  
バス停留所部門 土木建築工学科 3年 綾木 才子さん  
KAZAGURUMAベンチ日よけ部門  
土木建築工学科 3年 鎌池 凌生さん 渡邊 高弥さん



山口県体育大会ソフトテニス競技シングルの部  
2位入賞  
機械電気工学科 1年 木村 颯さん

# 今年の就職・進学状況

機械電気工学科

## 今年の就職・進学について

5年担任／機械電気工学科／教授

福田 明



2021年度の機械電気工学科5年生の卒業予定者は32名で、就職希望者が16名、進学希望者が16名です。例年より進学希望者が多めでしたが、新型コロナウイルス感染症の影響というよりは以前から進学希望の学生が多い学年でした。詳細は後項をご参照ください。

企業の高専生に対する採用意欲は新型コロナウイルスの感染拡大前とあまり変わらず、今年度も600社近い求人があります。新規企業から求人がある一方で、求人が無かったり採用人数を絞ったりする業界や企業がありました。企業の採用活動はオンライン化が進み、応募した企業の8割でWEB面接が実施されました。一次、二次面接をWEBで実施し最終面接を対面で実施する企業、全てWEB面接の企業、コロナの状況によって対面接からWEB面接に切り替える企業など各社各様でした。進学の編入学試験については、本校専攻科を含む一部の推薦入試がオンラインで実施されましたが、学力入試はほぼ全て例年通り対面で実施されました。

面接では、就職や進学に関わらず自分が将来どのような仕事をしたいのかを伝えることとなります。自分がやりたい仕事と応募先の企業の仕事や大学の教育内容の相違は双方にとって不幸であり、特に企業はこのようなミスマッチを極力避けようとしています。在学生の皆さんは早い段階で自己分析、業界・企業研究、職種研究を行い、ミスマッチを防ぐとともに面接で深掘りされても答えられるように準備しましょう。また、企業は何かチャレンジした経験や困難をどのように乗り越えたかを聞き、一緒に働きたいと思える学生を見極めようとしています。授業や試験とは別の本気のチャレンジを何か一つでもやってみましょう。そして、自分の言葉で伝える練習をしましょう。今後も引き続き就職試験等で実施が予想されるWEB面接は、相手に雰囲気や伝わりづらさとされます。それ故に自分の考えを言葉で伝える能力が重要となります。コロナの状況や応募先に応じて適切な対応ができるように、しっかり準備をして臨みましょう。

情報電子工学科

## 昨年度と今年度を振り返って

5年担任／情報電子工学科／教授

義永 常宏



令和3年度の情報電子工学科5年生は41名ですが、就職希望者30名、進学希望者11名となります。例年に比べ、就職希望者がやや多い状況です。

この学年は新型コロナウイルス感染症の影響により、4年次では研修旅行の中止に加え、インターシップも参加中止となりました。例年クラスの大半の学生が参加するインターシップは就職への大きなモチベーションとなっており、時にはインターシップ先への就職が決まることもあり、就職に対する意識低下を防ぐ目的で、担任団で協議協力のもと、インターシップの代替となるプロジェクトを策定し、学科独自のオンデマンド教材の作成・配信を行いました。また、従来のOB・OGによる学校訪問も対面では困難なため、放課後の17時以降にオンライン形式で実施しました。さらには、学生の興味・関心のある企業には、人事の方に直接お話しし、個々の遠隔での会社説明会なども実施していただきました。こうして始まった就職活動ですが、一

番早い学生は3月中旬に合格通知が届いたものの、「この学生がなぜ不合格に？」等、全体的にやや厳しい感じを受けました。面接試験では大半がオンラインでしたが、中には人物を直接見たいとの理由から対面で実施する企業もあり、感染拡大地域等を往来した場合、戻ってからの在宅受講をお願いすることになりました。十分な企業研究と志望動機の明確化、エントリーシート作成練習や面接練習など、対策すべきことは決まっています。

次に進学ですが、大学編入が6名、本校専攻科が5名です。コロナ禍の影響で採用人数を控える企業もあるためか、全国的に進学希望者が増えた様子で、例年になく倍率が高くなった大学もありました。進学の場合、言うまでもありませんが、早い段階での志望校等の決定と出題科目・範囲・傾向等の調査把握、そして受験勉強と本業の両立が必要不可欠です。

これから就職・進学試験に臨まれる皆さんが、しっかり準備され、自らの望む道に進まれますことを祈念いたします。

土木建築工学科

## 就職・進学の活動の中での冷静さと思いやり

5年担任／土木建築工学科／准教授

江本 晃美



2021(令和3)年度の土木建築工学科5年生の卒業予定者は43名(男子24名、女子19名)です。民間企業就職22名、公務員就職4名、徳山高専専攻科進学8名、大学編入・専門学校進学9名でした。

昨年度に続き、新型コロナウイルス感染症対策としてオンラインでのインターシップや説明会、面接試験が多く、学生は対面とオンラインの両方を準備する必要があり、通信環境から背景までを整える中で自分自身について冷静に伝える、という例外的難しさもありました。また、感染状況に応じて急遽面接試験がオンラインへ切り替えられる場合や、悪天候により変更対応が必要になる場合もあり、学生も、進路先の大学や企業も、お互いに移動経路と手段を含めて相談しながら決めていくことも多くありました。その中には、多くの企業が、学生の授業欠席や待機期間を含めて考えて下さることが多く、思いやりを持って採用活動をされていると感じました。

今年度の求人企業には、これまで

の企業様に加えて、開発研究職や環境・設備設計職、メンテナンス職等が加わり、選択の幅が広がりました。高専学生を1人でも獲得したいとお言葉を頂くことが多かったです。同時に、地元企業からの求人に興味を持ち、就職につながったケースも増え、改めて地域に感謝いたしました。

4年・5年の2年間は、インターシップやオープンキャンパスなど多くの情報を見たり、実際に訪問したり、進路を選択するのに最も重要な2年間ですが、この5年生は、その1/4の期間をオンライン授業で、また残りの期間も移動制限等の中で活動してきました。私自身、3年生の1年間を共に過ごしたとき、直接顔を見ることがなく、伴走する一方でした。方向性が決まっていた学生も、先行に1度は自信や決意が揺らぐこともありましたが、最終的に全員が「学生自身で道を選択」できました。学生みなさんには、「自分のやりたい」を信じて進路を選択し、活動では自信を持って将来を掴んでください。

専攻科

## 専攻科の就職・進学状況 ～能動的に動く力～

専攻科幹事／機械電気工学科／准教授

垣内田 翔子



令和3年度、学校に届いた専攻科修了生向け求人は、機械制御工学専攻に492社、情報電子工学専攻に492社、環境建設工学に281社という状況でした。大学院進学においては、高専専攻科修了生対象の推薦入試を活用した受験を行う学生もみられました。これは、専攻科力リキラムを修了した学生を高く評価していただけのことと、専攻科を修了した学生の進路の幅が大きく広がっていることの表れといえます。

これまでの日程や選考方法の多くが変更を余儀なくされる中、受け身にならず、能動的に活動を進める力が求められていると強く感じられました。そして、本年度の専攻科生は18名が企業、2名が公務員、11名が大学院進学という進路を選択し、徳山高専から旅立っていきつつあります。

まだまだ新型コロナウイルス感染症対策の影響がある中、本科時に見聞きしていたインターシップや会社・大学院説明会とは時期や形態が違うため、対応に苦労した面も大きかったように見受けられました。しかし、本年度就職を決めた学生の中には、学校へ届いた求人に限らず、一般応募として自分の希望する進路に向けて挑戦し、内定をいただいた学生もおります。これまでの就職実績にとらわれず、自分の進路に向き合い就職活動をしている姿も印象的でした。企業・大学院問わず、こ

専攻科の力リキラムは、長期インターシップや総合実験、総合演習、研究活動と普段から能動的な活動を求められます。その内容を行っていくには2年間という時間はとても忙しく短く感じるものであると思います。しかし、これらの活動を通して専攻科において、実際に自ら活動した実績が、評価されており、その後の進路の幅を広げる1つの特徴になっていると感じています。本科の皆さんも、専攻科生の姿から、能動的に動くことの大切さを感じて欲しいと思っています。

最後になりましたが、専攻科を修了される学生の皆さんが徳山高専での学校生活で得た経験を糧に、自分らしく益々活躍されることを願っております。

# 令和3年度 就職・進学先一覧

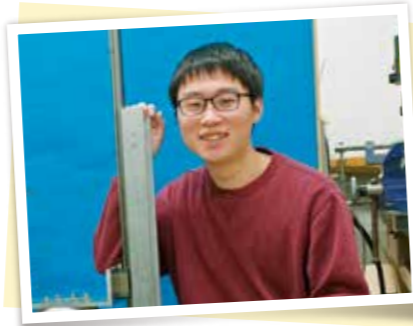
学科	機械電気工学科	情報電子工学科	土木建築工学科
就職先	アイリスオーヤマ(株)	アイテック阪急阪神(株)	アイリスオーヤマ(株)
	宇部興産機械(株)	アトラス情報サービス(株)	岩国市
	NTT東日本グループ会社	NSウエスト(株)	(株)INPEX
	(株)HIVEC	(株)NTTデータフロンティア	宇部建設コンサルタント(株)
	銅板工業(株)	(株)NTTデータMSE	ENEOS(株) 水島製油所
	新明和工業(株)	KDDIエンジニアリング(株)	(株)NHKテクノロジー
	水ing(株)	九州NSソリューションズ(株)	(株)車田建築設計事務所
	西部石油(株)	東京ガス(株)	シーエムエンジニアリング(株)
	東海旅客鉄道(株)	東ソー情報システム(株)	ショーボンド建設(株)
	東ソー(株) 南陽事業所	テルモ山口(株)	(株)異設計コンサルタント
	東洋製罐(株) テクニカルセンター	(株)トクヤマ	(株)東栄住宅
	(株)日立産業制御ソリューションズ	(株)トクヤマ情報サービス	東海旅客鉄道(株)
	日立交通テクノロジー(株) 笠戸事業所	(株)トヨタシステムズ	東京ガス(株)
	深江化成(株)	(株)ニコン	(株)トクヤマ
	メタウォーター(株)	中国電力ネットワーク(株)	中国電力(株)
進学先	(株)ハイマックス	中国地方整備局	中国地方整備局
	パナソニックシステムソリューションズジャパン(株)	西日本高速道路(株)	西日本高速道路(株)
	(株)日立ビルシステム	日本空港テクノ(株)	日本空港テクノ(株)
	富士通Japan(株)	三井住友建設(株)	三井住友建設(株)
	富士電機(株)	メタウォーター(株)	メタウォーター(株)
	(株)富士通ゼネラル	洋林建設(株)	洋林建設(株)
	(株)Phone Appli	若築建設(株)	若築建設(株)
	三菱電機エンジニアリング(株) 神戸事業所	和田材木店	和田材木店
	三菱電機エンジニアリング(株) 京都事業所		
	三菱電機エンジニアリング(株) 福山事業所		
	徳山工業高等専門学校専攻科	徳山工業高等専門学校専攻科	徳山工業高等専門学校専攻科
	大阪大学工学部応用理工学科	九州工業大学情報工学部生命化学情報工学科	熊本大学工学部土木建築学科
	岡山大学理学部物理学科	千葉大学工学部総合工学科	東京大学工学部社会基盤学科
	九州大学工学部機械航空工学科	筑波大学情報学群情報科学類	東京工業大学環境・社会理工学院建築学系
	東北大学工学部機械知能・航空工学科	筑波大学情報学群知識情報・図書館学類	豊橋技術科学大学工学部建築・都市システム学課程
豊橋技術科学大学工学部機械工学課程	豊橋技術科学大学工学部情報・知能工学課程	長岡技術科学大学工学部環境社会基盤工学過程	
北海道大学工学部機械知能工学科	北海道大学工学部情報エレクトロニクス学科	パンタンクリエイターアカデミー	
		広島大学工学部第四類	
		立命館大学理工学部	
		都市システム系建築都市デザイン学科	
		山口大学工学部感性デザイン工学科	

専攻	機械制御工学専攻	情報電子工学専攻	環境建設工学専攻
就職先	SGシステム(株)	オリンパス(株)	あおみ建設(株)
	ソニーグローバルマニュファクチャリング&オペレーションズ(株)	九州NSソリューションズ(株)	極東興和(株)
	日本飛行機(株)	(株)システナ	下松市
		セイコーエプソン(株)	(株)異設計コンサルタント
		東ソー情報システム(株)	西日本高速道路エンジニアリング中国(株)
進学先(大学院)	富士通(株)	三菱電機エンジニアリング(株)	日本工営(株)
	ヤマハ(株)		
	岡山大学大学院自然科学研究科 機械システム工学専攻	東京理科大学大学院システムデザイン研究科情報科学域	東京工業大学大学院環境・社会理工学院
	九州工業大学大学院生命工学研究科 人間知能システム工学専攻	名古屋大学大学院情報科学研究科知能システム学専攻	豊橋技術科学大学大学院工学研究科
	九州大学大学院総合理工学部総合理工学専攻 Ⅲ類	早稲田大学大学院情報生産システム研究科	
	東京都立大学システムデザイン研究科 航空宇宙システム工学域		
	奈良先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科情報科学領域		

## わたしの

# 就職進学STORY

先輩に一言  
さぼろうとする自分に負けないこと



## 久保 翔

研究室  
鈴木研究室

進学先  
九州大学工学部  
機械航空工学科  
機械工学コース

入学時は就職を考えていましたでしたが途中で変更し、進学という道を選びました。それでも合格できたのは1年生の時から勉強を習慣づけ、積み重ねてきたからだだと思います。「努力」と口で言うのは簡単ですが、体現するのは難しいです。だからこそ努力できる人は他と差をつけることができます。皆さんも何か目標を立てて、その実現のために日々精進してみてください。

### 進学までの道のりを紹介！ 久保さんのリアルSTORY

- 本科1年**
  - ソフトウェア部に入室
  - 就職志望だったが、テストの順位で負けたくないため、部活と勉強を両立させる
  - テスト週間の直前詰め込み型ではなく、毎日コツコツ継続して、上位をキープ
- 本科2年**
  - 後期から部活でキャプテンを務めるとともに、成績を下げないように頑張る
  - 11月当時の5年生の先輩に、徳山高専のレベルの高さと進学についての話を聞き、進学に興味を持ち始める
- 本科3年**
  - 「進学したいな」とは思うが編入勉強はせずに、学校の勉強だけで過ごす
  - 大学の情報を集め始めて、九州大学が推薦入試をしていることを知るが、まだ就職と進学でひとり悩む
  - 前期の保護者面談をきっかけに、親も進学への道を後押ししてくれる
- 本科4年**
  - 新型コロナウイルスの影響で遠隔授業となり勉強のリズムが崩すが、大学編入のためになんとか在宅で勉強する
  - 9月 具体的に志望大学を考え、九州大学の受験を決意
  - 10月 1つ上の先輩に九州大学の受験の話聞き、受験のイメージをつかむ
  - 推薦をとるために学校の勉強に力を入れる(時間的体力的に自分とのたたかい)
- 本科5年**
  - 九州大学の推薦が取れたため、推薦入試の対策をする
  - 5月 九州大学の推薦入試が遠隔となり、不安になる
  - 6月 九州大学工学部の推薦の編入試験を受験し、合格を勝ち取る

先輩に一言  
友達を大切に、自分一人にならずに相談していいこと



## 和田 宙樹

研究室  
鈴木研究室

就職先  
アイリスオーヤマ  
株式会社  
品質管理職

私は低学年の時に成績が悪く、まわりの友達や先生に助けってもらい徐々に成績が上がりました。こんな私が思うことは、一人で抱え込まずに周りの友達や先生方と相談し解決していくことが大切だということです。もし、勉強や部活で悩んでいることがあれば一人で考え込まずに周りを頼っていくことをお勧めします。

### 就職までの道のりを紹介！ 和田さんのリアルSTORY

- 本科1年**
  - 4月 硬式野球部に入部
  - 勉強が嫌いで最下位をとってしまう
  - 友達にも教えてもらったりして、不可単位なしで進級。仲間にも恵まれたことに感謝。
- 本科2年**
  - 8月 インターンシップで富士高圧フレキシブルホース株式会社へ働くことを体験したことで、就職する自分のイメージを漠然と持つ
- 本科3年**
  - 学内の企業説明会に参加。たくさんの企業をまわる。
  - 就職先について考えるようになる。県外へは出ようと決める。
  - 仲間と「テスト何点勝負」をしたりして、負けず嫌いな性格をうまく利用し楽しみながら勉強
- 本科4年**
  - 9月 コロナの影響でインターンシップではなく、オンラインで面接とOB・OG面談
  - 11月・12月 勉強に力を入れたことで、成績が(大学の推薦が貰えるくらいに)良くなり進学が就職で悩む
  - 2月 アイリスオーヤマ株式会社の2daysインターンシップに参加する。企画開発段階から携わり、品質管理を向上するための開発提案をする職種があることを知る。
- 本科5年**
  - 6月 2回の面接(オンラインと対面)を経てアイリスオーヤマ株式会社に内定をもらう
  - 前期末試験で1位に

希望する会社や大学に就職・進学した学生はどんな学生生活をおくってきたのか？今年度卒業・修了する学生に徳山高専の5年間・7年間を振り返ってもらいました。徳山高専生等身大のリアルストーリーと後輩へのメッセージです。

後輩に一言  
毎日を大切にしましょう。



### 情報電子工学科 今井 里乃杏

研究室  
杉村研究室

就職先  
テルモ山口株式会社

私が大切にしてきたことは、計画を立てることです。まず大きな目標を立て、それを達成するための目標をいくつか立てた後、毎日やるべきこと、というように、先を見据えて細かく計画することを意識していました。また、計画倒れにならないよう、毎日自分を振り返ることも大切にしていました。この力は、定期試験前はもちろん、就活時にも役に立ったと思います。

#### 就職までの道のりを紹介！ 今井さんのリアルSTORY

- **本科1年** 4月 高専の就職率の高さに惹かれて入学。就職を意識することはなく、毎日なんとなく過ごしていた。
- **本科2年** 9月 企業見学バスツアーに参加し、県内の企業を見学。先輩の活躍を見て、社会に出るイメージが湧いた。
- 3月 なにか資格を取ろうかと思い、ITパスポートを取得。
- **本科3年** 長期間入院した経験から医療に携わりたいと考え始める。
- 12月 学内の企業説明会に参加、具体的に就職する企業を考えるきっかけになる。
- **本科4年** コロナの影響でインターシップに行けず不安になる。
- 企業説明会は全てオンラインに。「コミュニケーションをとることに苦労する。
- 1月 学校に届いている医療系の企業の求人票をいくつか確認後、就職先をテルモ山口株式会社決定。
- 3月 テルモ山口株式会社にエントリー。同時期にいくつかの医療系の企業に就職サイトや企業のサイトからエントリー。
- **本科5年** 4月 SPや二回のオンライン面接を経て、内々定をいただく。
- 10月 オンラインで内定式が行われる。

後輩に一言  
休憩は大事！



### 土木建築工学科 石丸 壮太

研究室  
コンクリート工学研究室

進学先  
東京大学 工学部  
社会基盤学科

とにかくモチベーションの維持が大変だと思います。僕は渋谷や表参道の散歩のYouTubeをよく見て、将来そこで遊ぶ姿を想像してモチベーションを高めていました。自分が合格してやりたい事などをイメージすると、やる気が湧いてくると思います。長時間の勉強は、これ以上やるとヤバいなっていつ時があると思います。そんな時はYouTubeでも見てリラックスしてください！

#### 進学までの道のりを紹介！ 石丸さんのリアルSTORY

- **本科1年** 8月 ハンドボール全国高専大会で東京に行き、将来は都会に住みたいと思う。
- **本科2年** ファッションに興味を持つ。
- **本科3年** ファッションに対する金銭感覚が狂ってしまふ。
- 8月 全国高専大会で優勝。
- 12月 進学勉強するため部活は休部したが、進学するか就職するか迷う。
- **本科4年** 4月 コロナで春休みが伸び、時間ができたので進学の勉強を始めようと思えるが結局しない。
- 5月 友達とやっとな勉強を始める。
- 8月 数日間本気で勉強しすぎて、体調を崩す。
- **本科5年** 4月 このままではヤバいと感じ、一日17時間勉強するようになる。
- 7月4日 東京大学 1次試験(筆記)。
- 7月16日 東京大学 2次試験(面接)。

後輩に一言  
オートマトンは面白い！



### 情報電子工学科 柳井 雅貴

研究室  
義永研究室

進学先  
北海道大学工学部  
情報エレクトロニクス学科  
電気制御システムコース

進路を決めるにあたり、心がけたのは「自分の思いを大切にすること」です。北海道という全く違う環境に身を置くことで自分自身を成長させたかと思いきや、北海道へ行くことを決めました。皆さんが、本当の自分の思いとしっかり向き合い輝かしい未来をつかみ取れるよう応援しています。

#### 進学までの道のりを紹介！ 柳井さんのリアルSTORY

- **本科1年** 4月 バレー部に入部し、部活に精を出す。テストで悪い点を取りまくり、進級を目標に生きる。
- **本科2年** なんとなく進学について考え始める。学校での勉強に力を注ぐようになる。
- **本科3年** 今とは違う気候や環境で新しいことを1から学んでみたいと思うようになる。
- 北海道大学を自分の中で第一志望にする。も親から猛反対を受ける。
- 大学で宇宙工学が出来る学科を目指すも単位認定がうまくいかないことを知り、専攻を変えるか悩む。
- 1月 春の高校バレーを東京に見に行き、部活のモチベーションが高まる。
- **本科4年** 4月8月 コロナで学校に行けず、モチベーションが上がらず勉強しない毎日を送る。
- 8月下旬 専攻を変えずに宇宙工学を学べる名古屋大学か、北海道大学の2択で悩む。
- 10月 北海道大学の電気制御システムコースで人工衛星の制御をしている研究室があるのを知り、親を何とか説得して北海道大学を第一志望に設定する。
- 3月 北海道大学の研究室の先輩にアポを取り、色々教えてもらい、下降していたモチベーションを高める。
- **本科5年** 4月6月 ひたすら勉強する。部活との両立で心身の疲労が蓄積する。
- 6月7月 北海道大学工学部の編入試験を受験、合格。

後輩に一言  
やらない後悔よりやった後悔



### 土木建築工学科 能見 恵奈

研究室  
建築設計研究室

就職先  
岩国市役所

高専に入学してから、挑戦してみたいことがたくさんありました。でも、周りの目を気にして、失敗することが怖くて、結局やらすじまい。「あのとき、〇〇しとけば良かったな」と今でも後悔していることもあります。新しく挑戦したいことがあったら、思い切ってやって下さい。それをみて笑っている周りの人より、本気で打ち込めるあなたの方が何十倍もかっこいいです！

#### 就職までの道のりを紹介！ 能見さんのリアルSTORY

- **本科1年** 初めての中間試験で、中学生の時にとったことのないような自己最低点をとる。
- 専攻科に進学することをぼんやり考える。
- **本科2年** 倫理の単位を落とし、泣いて落ち込む(当時、まだ在学中だった姉に慰められる)。
- **本科3年** 建築関係の仕事をしている父に憧れ、建築系に進むことを決意。
- 倫理の単位を取り返すが、物理と数学II Bの単位を落とす。
- (2年生の時より冷静に受け止められ、少しは大人になったと勝手に思う)。
- **本科4年** 専攻科に進学し、そこから公務員を目指すことと考える。
- 高専本科卒でも一級建築士の資格を取得できる道が開かれていること、専攻科に進学するために必要なTOEICのスコアに全く届いていないことを知る。これを機に本科卒で公務員になりたいと方向性を決める。
- 当初は土木系の公務員しかないと割り切っていたが、3月になり、岩国市で建築系の募集があることを知り、急ピッチ試験対策を始める。
- 物理と数学II Bの単位を取り返し、何も落さずに5年生へ進級する。
- **本科5年** 5月に行われる採用試験に向けて勉強する。
- 筆記試験、面接試験を経て岩国市役所の内定を勝ち取る。
- 建築設計研究室で動画製作に関する卒業研究に打ち込む。

後輩に一言  
為せば成る 為さねば成らぬ 成るようになる



機械制御工学専攻  
田中 勇真

研究室  
三浦研究室

就職先  
SGシステム株式会社

行きあたりばったりな進路ではあります。逐次やりたいことはしてこれたかなと思ってます。コロナ禍を経て地方からでもオンラインで挑戦出来るのが格段に増えました。課題の量と相談しながら、出来そうなことには挑戦してみましよう。就職するにしても進学するにしても、その経験が貴重な財産になることと思います。



就職までの道のりを紹介！  
田中さんのリアルSTORY

- 本科1・2年 卓球部に入部。学業と両立しながら卒なく高専生活を送る。
- 本科3年 同級生に進められ高専カンファレンスに参加。学外のすごい高専生の存在を知る。趣味としての電子工作やプログラミングをはじめ。
- 学外のイベントやコンテストに積極的に参加するようになる。
- 本科4年 周南口ポコン部署長、卓球部、メカトロシステム部の両立に挑戦。自分の活動限界を知る。
- 研究室配属が決まる。やりたい分野の広さを改めて考えたときに、もう少し学生でいたいと思い、進学に舵を切る。
- 本科5年 研究室配属が決まる。やりたい分野の広さを改めて考えたときに、もう少し学生でいたいと思い、進学に舵を切る。
- 情報系学科に編入を目指すも失敗。専攻科に進む。
- 春休み中に大学院の研究室見学に行き大学院生活の雰囲気を知る。
- 専攻科1年 前期の間リモートでスマホアプリ開発のアルバイトに従事。その後いくつかの受託開発をこなすうちにシステムエンジニアとしての適性を感じる。
- コロナ禍で開催が危ぶまれていた高専ロボコンのバーチャル展示を企画・実施。いくつかの就活イベントに参加したのち地元機械系企業とSGシステムにエントリー。オンラインでの選考に臨む。
- 専攻科2年 最終的に後者から内定をもらう。

後輩に一言  
ってか、振り返ってみると  
いろんな意味で「楽」しか勝たん！



環境建設工学専攻  
石丸 航士

研究室  
コンクリート工学研究室

就職先  
極東興和株式会社

7年間の経験論から言うと、周りの人を頼って効率よく楽をすること、計画的に行動することで安定した高専生活を送られます！しかし、ただ楽をするだけでは必ず痛い目にあうので、しっかりと自分の考えを持つうえで効率よく計画的に自分のやりたいように生きましよう！



就職までの道のりを紹介！  
石丸さんのリアルSTORY

- 本科1年 4月入学 卓球部に入部(7年間続ける)
- 本科2年 山本拓生先生の数学IIAの4回のテストすべてで学年1位になる(7年間の唯一の自慢)ここで数学は暗記ではないことをたしかに感じる。
- 本科3年 11月テスト期間中に発売されたポケモンをやり過ぎたせいで成績が下がる。
- 本科4年 4月 専攻科への進学を決める。6月 バイトを始める。10月、11月 英語が苦手なTOEICで専攻科入試ラインの350点をとれずに苦しむ。
- 本科5年 5月 専攻科推薦入試に合格。3月 新型コロナウイルスのせいで卒業式がまさかの中止。
- 専攻科1年 前期 コロナが流行し何も無い日々を過ごすかと思いきや、新たな趣味を発見する。後期 研究で山口県内の橋の調査に行きまくる。研究、部活、バイトを半端なく両立。
- 専攻科2年 6月 極東興和株式会社の入社試験に合格。8月 店長と揉めて3年以上やってきたバイトを辞める。9月 バイトがないおかげで自分の時間が増える。研究がとってもいい感じに進み、趣味を全力で楽しむことで、充実した生活を送る。

後輩に一言  
失敗なんて存在しない。  
全部成功へのプロセス。



情報電子工学専攻  
田中 一希

研究室  
宮崎研究室

進学先  
富士通株式会社

失敗を恐れるな、いや失敗をしよう。失敗は自分を強くする最強の手段。僕は失敗することが大好きだ。でも失敗しても大丈夫って言えるのも、支えてくれる仲間が恵まれたから。いつも支えてくれる仲間を大切に。そして、いつも相談に乗ってくれた同級生、僕に青春を分け与えてくれた部活の仲間達へ。この場を借りてお礼させてください。本当にありがとうございました。



就職までの道のりを紹介！  
田中さんのリアルSTORY

- 本科1年 入学。憧れの高校生活を送れることに満足。もちろん進学就職のことなんか考えてない。
- 本科2年 何に対しても特に目標が無いため、とりあえずバドミントン部での活動に専念。
- 本科3年 7月 初めて出場した中国高専大会でまさかの一回負けこの経験から悔しさを覚え、部活の仲間と共にバドミントンに本気で向き合う。
- 本科4年 7月 中国高専大会のリベンジ。勝ち上がったが入賞することができたが、あと一勝で全国大会のところに落とす。それでも失敗した経験が大きく自分を成長させることを知る。
- 本科5年 9月 音響信号処理研究室に配属。研究に興味を惹かれ専攻科でもやりたいと思い、専攻科進学を志す。
- 5月 専攻科推薦試験合格。11月 研究の中途発表を日本音響学会の関西支部で行い、奨励賞を受賞。
- 専攻科1年 4月 バドミントン部のコーチを務める。全国大会に出られなかった失敗の経験を後輩の指導に活かす。6月 オンラインで東京都立大学大学院にインタビュー。音響信号処理に関する研究を行い、後に学会発表する。
- 9月 本科での成果を日本音響学会で発表。
- 1月 読んでいた本から人生100年時代という言葉に出会い、これからの時代は個人の力が重要だと考える。そのため多くの関係者やノウハウを集結し、個人として成長できる企業に絞って就活を始める。
- 専攻科2年 4月 2社の選考を同時に受ける。どちらも就活ランキング上位に入る大手企業に挑戦。5月 書類選考は通ったが、第一志望企業面接で落ちる。この失敗により就活意識全般を改善、次の面接から「今すぐ君と一緒に働きたい！」と言ってもらえるまで成長する。
- 5月中旬 第二志望の企業から内定をいただく。それでも持ち駒1つは流石にヤバいと思ったため、現在の内定先とどなる企業の選考を受ける。
- 6月末 現在の内定先から内定をいただく。第二志望と悩んだ結果、現在の内定先となる企業の内定を承諾する。

## Withコロナの キャリア教育支援プログラム！

### 続オンライン&オフラインハイブリッドキャリア教育支援プログラム

一年生から段階的に展開していく徳山高専キャリア教育支援プログラム。昨年度からオンライン&オフラインハイブリッド型プログラム実施を継続し、学生もスタッフもその開催方式に慣れ、スキルアップしてきました。昨年度Web開催となったキャリア・ウィークは、今年度はキャリア・デーとして、11月26日、学内に三つの会場を設けて参加者を分散させ、参加学生を4年生のみに制限することで対面開催が出来ました。昨年のWeb開催時に導入した質問送信機能も組み合わせ、キャリア・デー後も、出展者情報を閲覧・質問送信が出来るようにアップデートしました。

また、今年度から、キャリア教育支援室で、キャリア相談・学習ルーム「ぶらす土」を毎週、月曜日と火曜日の放課後に開催し、これまでの学習相談に加えて、キャリア相談にも気軽に応えられる環境を整えました。

Withコロナに迫られ、プログラム実施方法はアップデートされても、必要な情報を自分で収集し、その中から自分の人生設計に必要なものを抽出し、自ら選択して人生をデザインする準備を主体的に行える人材になってほしいという、キャリア教育支援室の願いは変わりません。今後、VUCA時代の主役となる学生の皆さんのより良い人生を願って活動していきます。



2021.12.14四-21四



## オンライン共同学習

シンガポール × 土木建築工学科4年

将来の夢を実現するために  
コロナ禍の今をどう乗り越えるかを  
テーマに意見交換



自分の考えを伝えるのって難しい!



シンガポールの学生と共同プレゼン

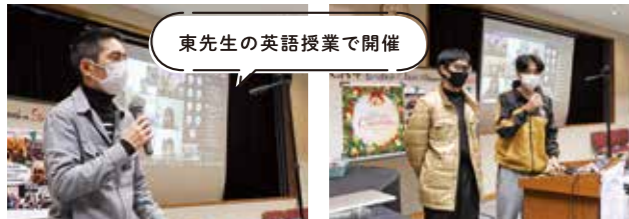


Huge thank you!  
Such a great success!

遠隔だけど息ぴったり!



司会もスピーチもお見事!



東先生の英語授業で開催



2021.12.17金



## 大連との 合同研究 発表会



機械電気工学科4年  
田嶋空太さん



機械電気工学科4年  
小林大也さん



2021.9.30 10.28 金

## 留学体験 報告会

プレゼンターは  
機械制御工学専攻2年 須郷賢さん  
機械制御工学専攻1年 中村征志郎さん  
機械電気工学科5年 大本直侑さん  
土木建築工学科5年 吉武侑悟さん 機械電気工学科4年 藤本樹宗さん



2021.8.23 四-24 四



## Virtual Exchange Learning

香港 × 長野高専 × 学生有志

3校混合チームで  
ライトレースカーを競走中



Hello! 学校生活紹介



バーチャルロボをプログラミング



2021.11.12 金-12.10 金



## 語学文化交流

スウェーデン × 学寮

日本語も英語も上手!



一人一人が積極的に  
交流会に参加



北欧の高校生と  
緊張の初対面



この日は、偶然にも  
スウェーデンでノーベル賞発表の日



# 国際交流活動報告

国際的な教育研究交流活動を支援

今年度の主催行事には、香港 IVE、長野高専と3校共同開催の「Virtual Exchange Learning」やスウェーデンのNTI Nacka高校との「語学文化交流」、大連東軟信息学院との「合同研究発表会」など新しい企画にも取り組んでまいりました。





浴衣で花火!

## 7月七夕会



体育館ではゲーム大会

## 5月 朝のラジオ体操



たまにやることがあります

七夕会やクリスマス会など楽しい行事を筆頭に、学友との愛と友情の集団生活、自立心が必要な掃除洗濯など、おうちじゃ経験できないような濃厚な寮生活を送っています。屋上から見える夕日は、儂くも愛おしい故郷を思い出させてくれます。

【レビュー:★★★★★】

寮生会長(男子寮長)  
土木建築工学科 4年 川邊 颯大

初めて寮の運営側に関わってみて、寮生マッチや、クリスマス会などの裏側を知ることができて楽しかったです。また、寮生が楽しんでいる様子を見ることができてよかったです。女子寮生で何回か遊んだりすることができたので、みんなの仲が深まっていたら嬉しいです。

副寮長(女子寮長)  
土木建築工学科 4年 窪田 結

## 8月 留学生プチ旅行



チューター学生と防府天満宮へ

## 5月・11月 学寮避難訓練



豪雨・地震・火災に備えます

僕が副寮長としての活動で一番思い出に残っているのは避難訓練です。拙い放送にも関わらず、寮生みんながスムーズに避難してくれて嬉しかったです。また、寮生会執行部の先輩方がとてもフレンドリーに接してくれたため、楽しい日々を送れました。1年間ありがとうございました。

副寮長  
情報電子工学科 3年 大津 宏隆

毎朝の清掃や各イベントの後片付けなどで、低学年に指示を出すことが多く、相手に分かりやすく伝えるにはどうすれば良いか悩んだ夜もありました。人の上に立つ事、自分の意思を伝える事の難しさを痛感し、人として少し成長できた一年でした。

美化厚生部長  
土木建築工学科 4年 山根 秀太

## 6月 女子寮花壇の整備



女子寮企画!  
花壇をキレイにしたかったです

内務部長として約一年間寮運営に携わってきました。今年の寮生会は仲が良く男女問わず協力して運営、生活ができたと思います。今も寮の色々な部分が変わり続けており、とても充実しています。去年はコロナの影響で思うような活動が出来ませんでした。今年是一年間を通じて思い出に残る寮運営、寮生活を送ることが出来ました。

内務部長  
土木建築工学科 4年 外西 大輝

寮の行事を盛り上げたり、テスト前の勉強会を開催したりしました。私の今年度の一番の思い出は、七夕会の時に花火をしたことです。花火の準備はとても大変でしたが、みんなで線香花火をして楽しむことができました。

指導寮生  
機械電気工学科 4年 中本 光星

## 11月 オンライン国際交流



寮の仲間と一緒に  
スウェーデンの高校生たちと国際交流

## 11月 後期寮生マッチ



寮生マッチの花形! サッカー



新入寮生集合写真



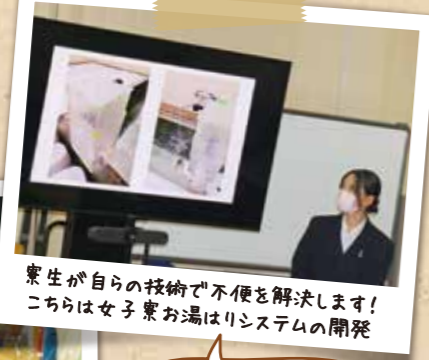
寮生会役員

4年 窪田 結  
3年 大津 宏隆  
4年 川邊 颯大  
4年 外西 大輝  
4年 中本 光星  
4年 山根 秀太

## 12月 クリスマス会



全消灯した夜の校舎で宝探し。  
その後は、全寮生ビンゴ大会!



寮生が自らの技術で不便を解決します!  
こちらは女子寮お湯はリシステムの開発

## 12月 学寮PBL発表会

# 学生会活動

## 前期・後期クラスマッチ

学生会体育局長 松本裕太

今年は前期後期2回のクラスマッチがありました。去年と同様に新型コロナウイルスに配慮した形で開催ということになりました。午前と午後で時間を分けて実施したり、競技者以外の人はマスクを着けて観戦するなど少し変わったクラスマッチになりました。

準備の段階からコロナ対策ができて学生が最大限に楽しめるよう考えてきました。特に競技前の消毒など感染対策の徹底には苦労しましたがそのおかげで今年度は前期と後期クラスマッチを行うことができました。前期クラスマッチでは天候に恵まれず大雨の中の開催でした。本来なら中止になるのですが皆さんの熱い思いもあり、最後までやり遂げることができました。前期クラスマッチ午前前の部総優勝は機械電気工学科3年、午後の部総優勝は情報電子工学科4年でした。雨の中一生懸命頑張っている姿はとても印象的でした。雨の後の片づけは大変でトラブルもありましたが、開催してよかったですと感じています。

後期クラスマッチでは天候にも恵ま

れ各学年総合優勝を目指し、とても盛り上がったクラスマッチになりました。どのクラスも接戦でしたが午前の部は土木建築工学科2年、午後の部は機械電気工学科4年が総合優勝となりました。また今年初参加だった1年生も先輩に負けず善戦していました。またこのような状況下でクラスマッチが行うことができてうれしく思います。協力してくださった先生および学生の皆さんありがとうございました。今後より良いクラスマッチが開催できるよう体育局、文化局で運営していきたいと思っています。



フリスビーゴルフでは相手が投げたディスクを素早くかちます!



ソフトボールではホームランを狙ってカッパいバットを振りました!



バスケットボールではこの日に向けてチーム力を強化! 豪快なシュートに思いを込めました!!



サッカーでは相手を華麗なフェイントでかわして味方のシュートに繋がります!

## 高専祭

高専祭実行委員長 山根秀太

10月30日に第47回高専祭を実施しました。様々な制約がある中「RESTART」のテーマのもと学生会が中心となって企画・運営を行いました。メイン部署によるメイン企画やステージ部署によるステージ企画、一年生によるお化け屋敷、二年生による巨大迷路とフォトスポット、土木建築工学科3年によるインスタ映えスポット、一部の部活による作品展示などが主な内容でした。ステージ企画では吹奏楽部によるコンサートや有志団体によるライブ、ファッションショー、本部部署による抽選会などを行いました。コロナ禍での実施ということもあり、密を避けるために十分に間隔を広げた席での観覧やマスクの着用を義務付け、入場者の検温など感染症対策を徹底し1日限定での開催となりました。

高専祭実施日の数週間前から各企画の準備を行いました。当日が近づくと徐々に徐々に様変わりしていく学校に、全体で高専祭気分が盛り上がっていったように思います。

当日は天候にも恵まれ、予定通り情報処理センター前の駐車場に設置した野外ステージを主として高専祭を実施することができました。ステー

ジ上ではクイズやカラオケ大会などが行われました。ステージ周辺の座席で観覧していた学生たちだけでなく、各企画に参加してくれた学生たちも節度を保ちつつ盛り上がっていました。また、野外での実施を試みたファッションショーでは、歓声を送る代わりに拍手を送るようお願いしていたので、当初は盛り上がりに欠けると考えていましたが、志願者達による完成度の高いダンスで当日一の盛り上がりを見せていました。伝達不足などのトラブルがありました。全体を通して成功裏に高専祭を終えられたのではないかと思います。

高専祭実施に向けて、パンフレットの作成や看板の設置、スポンサー活動など、学生会を中心に積極的に学生たちが動いていました。コロナ禍でまだまだ制限が多い学生生活の中で学生たちにとって束の間の休息になったのではないかと思います。

新たな開催方法を模索し、一から創り上げた今回の高専祭が今後の糧になればと思います。



LIVE



ファッションショー



作品展示



インスタ映えスポット

# 留学生だより



## 留学生になったからこそ チャレンジの重要性が分かる

土木建築工学科  
ンジャイ セリーン アリウ



橋に関する勉強をするために2018年の4月にアフリカのセネガル国から来日しました。1年間、東京の日本語学校で日本語を学び終わった後に徳山工業高等専門学校の土木建築工学科の3年生になりました。

最初は文化の違いとか主食とかについていろいろ困った所があったけど、チューターや高専の友達を通じて日本人の習慣、マナー、マインドセットなどを納得できるようになりました。学習面についても困った時にクラスメートと相談したり、先生達に聞いたりして、効率的にすすめることが出来ました。

高専で印象に残ったのは、勉強だけではなく、クラスマッチです。3年生からクラスマッチのバスケットに参加し始め、結構頑張って5年生でクラスマッチのバスケットで優勝してめちゃめちゃ嬉しかったです。

徳山高専に来たのをきっかけにさまざまな経験を積みました。先生達や学生達がお世話してくれたことについては、自分の感動を表現できないほど、ありがたくて決して忘れません。

There is one quotation from Gandhi that says, «There is nothing to be gained from settling a version of you less than the quality of your potential». Tokuyama Kosen has made me go beyond my limits and setting the best version of myself. Because when I came in the school, being far from my country, my family, I had to take at the beginning my own responsibilities about my life and my future. That college of technology has made me understand that being engineer requires some of good habits and mindset. I mean, given that an engineer mission is to try to solve people's problems, then this is possible only if the engineer has habits of highly effective people. In a nutshell, I would say that Tokuyama Kosen has given me the opportunity to open my eyes, to be stubborn on my vision, to be relentless about my goal which is to be an international civil engineer; and know that I must be the change that I want to see in my life.

## Memory ~思い出~

### 留学生とのプチ旅行 さあ、防府天満宮へ出かけよう

夏休みに突入したある日のこと。それは寮が停電する日でした。こんな真夏に、エアコンすら使えない場所に留学生を取り残すわけにはいかない...!そんな思いから、プチ旅行が生まれました。メンバーは、セリーンくん、今年度から仲間に加わったスメイくんとドーギーくん、そしてスメイくんのチューターであった渡邊くんと引率教員(段下)の5名。プランのほぼ全てを委ねられた渡邊くんが選んだ舞台は、彼の地元、防府でした。生まれ育った場所を紹介しあえる関係、それは一生ものではないでしょうか。



# 退職教職員から

## 定年を迎えて

一般科目/教授

大橋 正夫



令和4年3月に定年となります。徳山高専には、平成6年4月に着任いたしました。着任した年すぐに、2年生の担任をさせていただきます。翌年の平成7年4月には専攻科が新設され、これからの徳山高専のさらなる発展の機運が感じられました。その後、徐々に専攻科生も多くなり、JABEE認定が行われ、現在の本校の基盤が築かれたように思います。

自己評価委員会において、現在も続いてる授業評価の項目や公開授業の実施要領を決定したことが思い出されます。また、留学生試験の採点のために、マレーシアのマラ工科大学へ派遣されたことや、高専機構の代表委員として、MEの鈴木先生とともに、香港VTCに派遣されたことが印象に残っています。

寮務主事補と学生主事補は7年間、専攻科長と専攻科幹事も7年間、学級担任は10年間担当させていただきました。ク

ラブ活動では、長く写真部の顧問を担当し、何度か中国地区高専合同の写真展を開催いたしました。同時にこの間、野球部、剣道部、バドミントン部、ソフトテニス部も担当し、引率等での学生諸君との思い出がたくさんできました。

着任後8年目からは、防府市青少年科学館ソラールにおいて、小中学生向けの実験科学講座に毎年講師として参加いたしました。初めは、毎年テーマを変えて行っていたのですが、徐々に参加者の評判が良い、金めっきの実験を行うことが多くなりました。中学生のときに、この科学実験講座に参加した学生の担任となったことが良い思い出となっています。

最後になりますが、教職員、学生の皆様、28年間大変お世話になり、ありがとうございます。新型コロナウイルスの今後の活躍を大いに期待しています。新型コロナウイルスの感染拡大が早く収まることを願っています。徳山高専の益々の発展を祈念いたします。

## 徳山高専の思い出

情報電子工学科/教授

義永 常宏



あまり実感のなかった定年退職でしたが、とうとう時期が来ました。

学生時代に所属していた学科では、卒業生の大半が教職に就いていました。御多分に漏れず「でもしか先生(先生にでもなるか/しかなれない)」と揶揄されつつも公立学校の採用試験を受けました。結果を待っていた秋頃、指導教員から情報電子工学科助手募集のお話がありました。学生時代は「情報」や「電子」とは全く無縁だったので、果たしてやっていけるだろうかと思いましたが、同じ先輩たちとは違う道に進むのもありかと応募し、何とか採用して頂きました。

前述のように不安を抱えての着任でしたが、一方でなかなか学生気分が抜けず、失敗を繰り返しながらも、先輩教職員の方々の温かく時に厳しいご支援・ご指導の中で教員生活をスタートすることができました。(なお、後で知ったことですが当初は「変な奴が来た」ともっぱらの評判だったそうです)当時の助手は講義や主たる校務もなく、

先輩助手の方たちと自主的な勉強会などを行ったりもしていました。まだまだのんびりした時代で夏休みなどは学科の皆さんで海水浴に行ったことも記憶に残っています。

講師になり、授業を担当するようになりましたが、教え方が拙いこともあり、学生さんは退屈そうだし、居眠りも始まります。気分転換に雑談を入れたりもしましたが、ある卒業生から「授業内容は忘れたけど、雑談は覚えてる」と言われ、複雑な気持ちになりました。ちなみに、今年も黄年ですが、かつて私が「ウルトラ」と呼ばれていた(なぜでしょう)ことを知る人も今では少ないことと思います。

思い出すことは多々ありますが、紙面の関係で紹介することができません。教職員の方々や学生・卒業生の皆さんに恵まれ、お蔭様で何とか今日を迎え、想い出溢れる教員生活とすることができました。

ありがとうございました!

## 令和3年度の母校支援内容が決まりました

高城会理事長 機械電気工学科 15期卒 現機械電気工学科教員 張間 貴史

令和3年10月30日(土)に高城会の理事会をZoomでオンライン開催し、以下の母校支援を行うことを決定しました。

- **新型コロナウイルス対策費(50万円)**  
新型コロナウイルス抗原検査キット購入等の対策費としての支援です。学生や教職員の安心安全のために、高城寮での活用が計画されています。
- **公用車整備充実費(30万円)**  
12年前に高城会から寄贈したエスティマハイブリッドのカーナビ交換、およびエスティマを含む公用車3台へのドライブレコーダー設置費用としての支援です。運転する教職員の利便性向上や、万が一の際の安心のために寄贈させていただきます。
- **トートバッグ製作費(初年度分70万円)**  
オリジナルのトートバッグを製作して寄贈します。教材や

BYOD端末などを持って通学したり校内を移動したりする学生のための支援です。初年度分として令和4年度の新入生と現役学生に、その後は新入生に毎年贈呈する予定です。学生の皆様におかれましては、卒業後もトートバッグを末永くご利用いただき、母校徳山高専との繋がりを感じていただけると幸いです。今後とも、よろしくお願いたします。



## 談ラン会 ～学生と教員が、二人三脚で、一歩ずつ～

時は遡り2年半。学生のホンネに耳を傾けよう。学生と教職員が同じ目線で、ホンキで学校の未来を考えよう。そのための新たな試みとして誕生した「談ラン会」。昼休みの時間を使って「ランチを食べながら談話会をする」ことにちなんで名付けられたものです。しかし、今のご時世、そのコンセプトに合わせた開催は絶望的に…。それでも、やるべきことは変わらない。

そんなわけで、写真は2021年10月、放課後に開催された談ラン会の様子です。この日は、コロナ禍における学校生活について、幅広い話題でお話していました。その中でも特に印象に残っている提案があります。「ペットボトルのキャップをゴミ

として回収するのではなく、ワクチン等に替えられるよう収集することはできませんか？」教職員でこんなことを考えていた人が、果たしてどの程度いたのでしょうか。やはり学生の声をじっくり聴くこと、その機会をつくることは大切ですね。談ラン会が、学生・教職員双方に有意義なものになるよう、一歩ずつ確実に歩みを進めていきたいです。ところで、次年度以降、ランチが無理ならスイーツはOKなのかな?? (企画室主務 段下剛志)



## 編集後記

今回も「高専だより」の発行に関しまして、各方面における皆様のご協力をありがとうございました。特に、短い執筆期間にも関わらず、寄稿していただいた執筆者の方々には感謝申し上げます。2021年は、本校においてもコロナによる影響が続き、常にコロナ対策の模索を行っている状態です。その中においても、全国高専体育大会が8月末から年末に時期を変更することにより、コロナ波の狭間となり、多くの種目で大会

が開催できたことは、関係者の皆様のご尽力の結果だと感じております。現在、この編集後記を執筆しているのは1月上旬で、感染力の非常に強いオミクロン株も一因による第6波の到来により、山口県に初めての「まん延防止等重点措置」が適用されている状況です。「高専だより」が発行される3月においては、第6波やコロナそのものが収束に向かっていくことを祈るばかりです。(高専だより編集委員 杉村)

## 始まりは国際交流室

情報電子工学科/教授

奥本 幸



4年前、ニュージーランドへの学生引率に手をあげた時に私のワクワクが始まりました。しかし、その時の英語力は、バスに乗って「降ります！」の一言が言えませんでした。ホームステイ先がインド人の家庭で、毎日日本場のインド料理を堪能しました。この時とても親切にいただいた事も海外が好きになった理由の一つです。ある日曜日、学生がワイヘキ島へ探索に行くと言うので、私はワイナリーツアーへ参加しました。バスの日本人は私一人、置いていかれてはという緊張感で、ワインを味わうどころではありませんでした。

発ゲートの前で、一人飛行機を待っていました。すると、台風の影響で、突然キャンセルになり、大パニック。翌日、出発時の福岡空港とは違う広島空港に無事着いた時は不思議な感動を覚えました。

中国の大連へも引率しました。昔、中国のトイレには隣との仕切りがないという話を聞きましたが、大連はとても綺麗な都市でした。学生は高専の授業のおかげで中国語の発音を理解していて、中国語で自分の名前を紹介していました。一緒に短期留学した、他大学の中国出身の先生にバンダを見に連れて行っていただいたようです。私は学生より先に帰国するため、空港の出

2020年3月に21名の学生と参加予定だった台湾研修は、コロナで中止となりました。学生の皆さん、是非若い時に海外へ出てみましょう。日本とは異なる空気に身を置くとワクワクします。お金をかけなくても、また、コロナ禍でも機会はあります。国際交流室のオンライン交流会に参加する、英語の歌を覚える、好きなアニメを英語で見るとはどうでしょう。

最後になりましたが、学生時代から数えると何と50年近く高専にお世話になりました。本当にありがとうございます。

## 退職にあたり

土木建築工学科/教授

古田 健一



私が徳山高専に赴任したのは、昭和63年4月で10期生が卒業する年でした。それから一年も経たずに昭和は終わり、平成の世の中になりました。以後、令和に変わり、3つの元号に渡って高専に勤務してきました。

最初の頃は、土木建築工学科の教員15人のうち、建築の先生は3人しかおらず、土木色が強い学科だったため、CAをCaと表記されることもありました。その当時はまだ専攻科も無く、のんびりとした雰囲気な学校でした。電算機センターにはまだメインフレームが入っており、プログラムをパンチカードの束にして持って行き、空気圧でバタバタとカードを読み取るような時代でした。現在のパソコンの性能を考えると、在職中はパソコンの進歩とともに歩んできた感があります。

科主任を務める頃から成績は逆転し、CAに優秀な学生が集まり出しました。ちょうどその頃、「大改造!! 劇的ビフォーアフター」というテレビ番組で建築士の仕事が目玉を集め、女性建築士に憧れて女子が入学するようになり増えて現在に至っております。

窓から見える景色のほとんどが土木建築工学科のフィールドです。世の中の大部分を土木建築工学科が形作っていると聞いても良いでしょう。それを考えると土木建築工学科の未来は明るいと見えるでしょう。皆さん、これからも頑張ってください。



本校の「設計情報工学」プログラムは、日本技術者教育認定機構（JABEE）からの認定を受けています。

本校は、令和元年度に独立行政法人大学評価・学位授与機構の認証評価を受け、認証評価基準を満たしていると認定されました。平成18年度に同機構による認証評価を得ており、引き続き認定されたものです。

---

## 徳山高専だより No.75

---

発行 徳山工業高等専門学校 総合企画室  
所在地 〒745-8585 山口県周南市学園台  
TEL (0834) 29-6200 (代表)  
FAX (0834) 28-7605 (代表)  
印刷 赤坂印刷株式会社  
発行日 2022年(令和4年)3月9日  
URL <https://www.tokuyama.ac.jp/>